

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅻ

狐宮遺跡Ⅲ

2016

新潟県教育委員会

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

きつのみや
狐宮遺跡Ⅲ

2016

新潟県教育委員会

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上越三和道路は、上越市寺と三和区を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼市六日町に至る延長約 60km の一般国道 253 号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この地域高規格道路は、地域の活性化や他地域との交流を促進することを目的として建設される道路です。上越地域においては、高規格幹線道路である北陸自動車道・上信越自動車道とあわせて、信頼性の高い循環型広域ネットワークを形成することを目指し、これによって、沿線地域の産業・経済・文化の交流発展が促進されるものと期待されています。

本書は、この上越三和道路建設に先立ち、2014 年度（平成 26）に発掘調査した狐宮遺跡の調査報告書です。同遺跡の調査は 2005 年（平成 17）、2009 年（平成 21）にも実施され、これについてはすでに報告書が刊行されています。

過去 2 回の調査では、縄文時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺物が出土し、古代の集落を中心とする遺跡であることが分かっています。今回の調査でも 9 世紀中葉の遺構・遺物が検出され、自然堤防上に形成された農業を基盤とする当時の集落の様子が明らかになりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を賜った上越市教育委員会、並びに門田新田町内会をはじめとする地元の方々、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対し厚くお礼申し上げます。

2016 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長 高 井 盛 雄

例 言

- 1 本報告書は新潟県上越市門田新田字江向 20-5 ほかに所在する狐宮遺跡の発掘調査記録である。
- 2 2014 年度の調査成果をまとめたものが本書「狐宮遺跡Ⅲ」で、狐宮遺跡の 3 冊目の発掘調査報告書である。
- 3 調査は一般国道 253 号上越三和道路建設事業に伴い国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が受託したもので、調査主体である県教委は公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に調査を依頼した。
- 4 埋文事業団は、掘削作業等を株式会社古田組に委託して、2014 年度に発掘調査を実施した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が保管している。
- 6 調査成果の一部は、「埋文事業団年報」で公表しているが本報告書をもって正式な報告とする。
- 7 遺物の註記は、狐宮遺跡の略記号「14 キツノ」とし、出土地点や層位等を併記した。
- 8 本書で示す方位は、すべて真北である。
- 9 掲載遺物の番号は種別に関わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。
- 10 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に [] で示し、巻末に一括して掲載した。
- 11 遺構・遺物図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 本書の執筆・編集は、飯坂盛泰（埋文事業団 調査課班長）が担当した。
- 13 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げます。（敬称略 五十音順）

上越市教育委員会 門田新田町内会

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	2
A 試掘・確認調査	2
B 本発掘調査	3
3 調査・整理体制	4
4 整理作業	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	7
第Ⅲ章 調査の概要	9
1 グリッドの設定	9
2 基本層序	10
第Ⅳ章 遺 構	11
1 概 要	11
2 遺構の記述と表記方法	11
3 遺 構 各 説	12
A 掘立柱建物	12
B 井 戸	12
C 土坑・ピット・性格不明遺構	12
D 溝	14
第Ⅴ章 遺 物	15
1 概 要	15
2 土 器	15
3 木 製 品	16
第Ⅵ章 ま と め	17
1 2014年度の調査成果について	17
2 総 括	17

《引用・参考文献》	18
《観 察 表》	19

挿 図 目 次

第 1 図 上越三和道路の路線と調査遺跡の位置	1	第 5 図 グリッド設定図	9
第 2 図 試掘・確認調査トレンチ位置図	2	第 6 図 基本層序	10
第 3 図 高田平野の地形分類図	6	第 7 図 遺構の平面形態と断面形態の分類	11
第 4 図 上越三和道路関係の遺跡と周辺の古代遺跡 分布図	8	第 8 図 遺構埋土の堆積状況の分類	11

表 目 次

第 1 表 周辺の遺跡一覧表	7
----------------	---

図 版 目 次

【図面図版】

図版 1	狐宮遺跡の位置と周辺の地形
図版 2	狐宮遺跡遺構全体図
図版 3	2014 年度調査区遺構全体図
図版 4	遺構分割図 (1)
図版 5	遺構分割図 (2)
図版 6	遺構分割図 (3)
図版 7	遺構分割図 (4)
図版 8	遺構分割図 (5)
図版 9	遺構分割図 (6)
図版 10	遺構断面図
図版 11	遺構個別図 (1) 掘立柱建物
図版 12	遺構個別図 (2) 井戸・土坑
図版 13	遺構個別図 (3) 土坑・ピットほか
図版 14	遺物実測図 (1)
図版 15	遺物実測図 (2)

【写真図版】

図版 16	調査区全景
図版 17	遺構検出状況・SB17・基本層序・須恵器小 型短頸壺出土状況・出土土器
図版 18	SB17・SB7
図版 19	SB7・SB18
図版 20	SB18・SE2142・SE2147・SE2246
図版 21	SK2110・SK2111・SK2118・SK2140・ SK2141・SK2145
図版 22	SK2148・SK2152・SK2153・SK2154・ SK2156・SK2211・SK2213・SK2230
図版 23	SK2236・P2119・SX2150・SD2208・ SD2109・SD2135
図版 24	土器 (1)
図版 25	土器 (2)・木製品

第 I 章 序 説

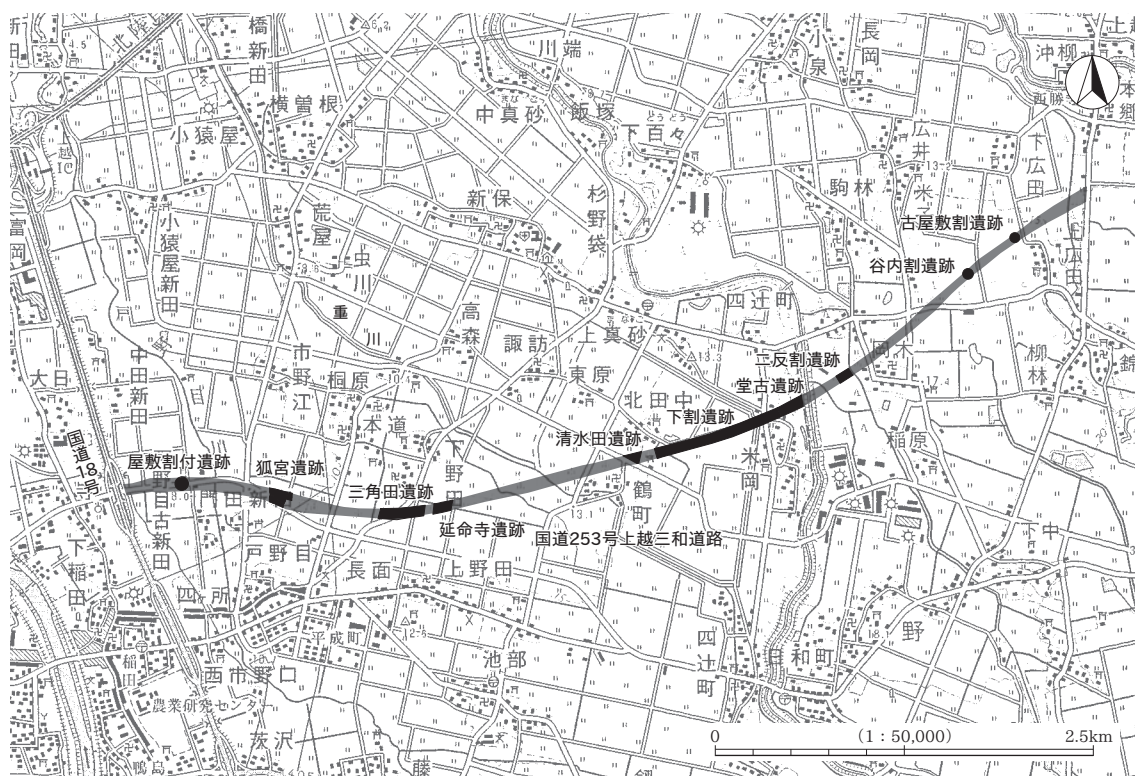
1 調査に至る経緯

上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道 253 号）のうち、上越市寺から三和区本郷までの延長約 7.4km の区間である。上越魚沼地域振興快速道路は 1998 年 12 月に整備区間に指定され、上越市と南魚沼市を結ぶ延長約 60km の地域高規格道路として計画された。完成すれば、上越地方と首都圏を結ぶ最短経路として広域的な交流が促進されることが期待される。

国土交通省は、上越三和道路の着工に向けて県教委に計画予定地内における埋蔵文化財の分布調査を依頼した。県教委の委託を受けた埋文事業団は、2001 年（平成 13）4 月に分布調査を実施したところ、範囲内の 24 か所から主に古代・中世の遺物が採集されたため、ほぼ全域にわたり試掘調査による遺跡の存在確認が必要であると県教委に報告した。

狐宮遺跡の試掘・確認調査は、県教委の委託を受けて埋文事業団が、2004・2005・2008 年に実施した。調査の結果、古代、中世の遺跡で、本発掘調査必要面積は 12,775m²となった。これまで、2005 年、2009 年に本発掘調査を実施している。

2014 年度調査として、「平成 26 年 3 月 19 日付け」で国土交通省から県教委に対し県道上越・安塚・柏崎線下で調査が残っていた 1,700m²の本発掘調査の依頼があり、県教委は、「平成 26 年 3 月 31 日付け 教文第 1580 号の 2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。



第 1 図 上越三和道路の路線と調査遺跡の位置
(国土地理院「高田東部」1：50,000 原図 2007 年発行に加筆)

2 調査の経過

A 試掘・確認調査（第2図）

用地取得の関係から3か年にわたり行われた。

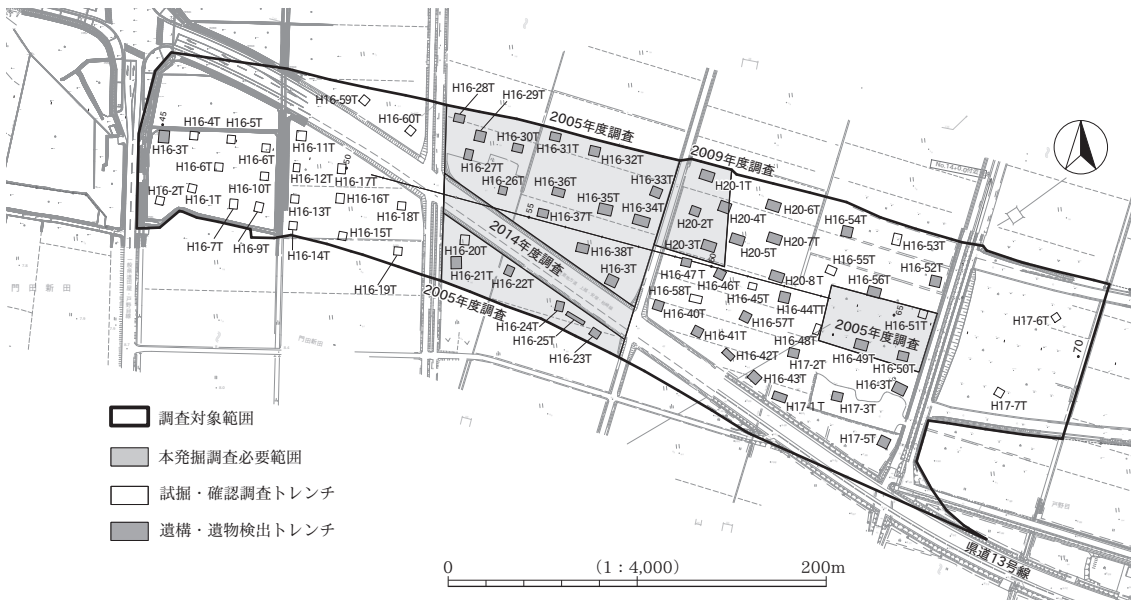
2004年度

県教委の委託を受け、5月17日から6月11日に埋文事業団が実施した。調査対象範囲の25,000m²に任意のトレンチを60か所設置した。トレンチは重機及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況などを観察・記録した。調査の結果、現地表約20cmで多くのトレンチ（H16-21～44・46・47・49・50・52・54・56・57T）から古代の遺物や遺構を検出した。また、H16-22・23・31・34トレンチでは、古代の遺物包含層よりも下層から古墳時代の遺物が出土した。以上の結果から新発見の遺跡として狐宮遺跡と呼称し、20～39トレンチ周辺の9,450m²を本調査必要範囲とした。周辺の三角田遺跡、延命寺遺跡の状況と類似することから下層に遺跡が存在する可能性があり、上層の調査終了後に下層の遺構・遺物の有無を確認することとした。また、40～56トレンチ周辺は未買収地があり、その範囲の確認調査が済むまで判断保留とした。

2005年度

県教委の委託を受け、4月6日～8日に埋文事業団が実施した。

前年度未買収地で試掘・確認調査が実施できなかった範囲3,640m²を対象に実施した。7か所の試掘坑についてバックホーと人力により掘削・精査を行った。その結果、H17 1～5トレンチで古代の遺物が出土したが量は少なく、遺構が検出されなかったことから対象地の本発掘調査の必要はないと判断した。



第2図 試掘・確認調査トレンチ位置図

また、前年度判断保留としていた 48～56 トレンチの区域は、今回と同様な状況と想定し、本発掘調査の必要はないと判断した。49・50 トレンチから相当数遺物が出土したことから、その周辺 1,750m² についてトレンチ調査などの再調査が必要と判断した。

2008 年度

県教委の委託を受け、8 月 18・19 日に埋文事業団が実施した。調査対象は、法線センター杭 No58～63 間の北側の範囲 3,586m² で、8 か所のトレンチを設定した。調査の結果、すべてのトレンチから遺物が出土し、H20-2・3 トレンチで遺構を検出した。この結果、H20-2・3 トレンチ周辺の 1,775m² を本発掘調査必要範囲とした。

B 本 発 掘 調 査

2005 年度

4 月 11 日～11 月 18 日まで 11,200m² を調査対象に実施した。調査の結果、9 世紀前葉～後葉の平安時代の集落が見つかり、掘立柱建物、竪穴建物、井戸、畑作溝などを検出した。このほか、古墳時代の陥穴や縄文時代草創期の所産と考えられる尖頭器を検出した（第 VI 章 2）。

2009 年度

2005 年度に未買収地であったため調査ができなかった範囲 1,589m² について、4 月 22 日～6 月 12 日まで実施した。調査の結果、集落の北東縁辺にある掘立柱建物、井戸、土坑などを検出した。

2014 年度

県道 13 号線部分の 1,700m² を調査対象に 9 月 16 日～11 月 21 日まで実施した。県道の迂回工事が完了するのを待って 9 月 16 日から現場準備に入った。9 月 19 日から表土掘削を始めた。重機で県道下に敷かれていた厚さ 1m 程の碎石の撤去と、調査区周辺に開渠を設置しながら遺構検出面まで掘り下げた。また、調査区を横断する 6 列グリッド付近にある水路（ヒューム管）は撤去せず残した。10 月 9 日から作業員を投入、開渠の掘削・整形を行った後、遺構検出を行った。掘削はホソ、竹べらなどを用い、精査はジョレン、両刃カマなどで行った。遺物の取り上げは 2m 毎の小グリッドを基本とし、遺構出土の遺物はこれに遺構名を付した。遺構番号は、2005・2009 年度調査からの継続で番号を付した。遺構は掘立柱建物の柱穴、井戸、土坑、溝、畑作溝などを検出し、11 月 12 日にラジコンヘリコプターによる航空写真撮影（以下、空撮）を行い、同日に県教委の調査終了確認を受けた。11 月 17・18 日に重機で下層のトレンチ調査を行ったが、古墳時代の土器の小破片 3 点しか出土しなかった。11 月 20 日に国交省と現地引き渡しの確認を行い、21 日に調査を終了した。最終的な調査面積は、調査区中央、両端を横断する水路（ヒューム管）と北側にある道路側溝を残して調査したため実質 1,640m² である。下層の調査面積を含めると延べ 1,810m² となる。

3 調査・整理体制

試掘・確認調査の体制は『狐宮遺跡』[飯坂ほか2007]、『狐宮遺跡Ⅱ・下割遺跡Ⅳ』[高橋ほか2011]の報告書に掲載している。狐宮遺跡Ⅲの本発掘調査と整理作業は、以下のような期日と体制で行った。

調査期間	2014年9月16日～11月21日
整理期間	2014年11月25日～2015年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 高井 盛雄）
調査	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総括	土肥 茂（専務理事 事務局長）
管理	熊倉宏二（総務課長）
庶務	仲川国博（同 班長）
調査総括	高橋 保（調査課長）
指導	田海義正（同 課長代理）
調査担当	飯坂盛泰（同 班長）
支援	株式会社 古田組 現場代理人 竹内一喜 調査員 渡邊大士

4 整理作業

整理作業は、現地調査と並行しながら進めた。遺物の水洗、注記と遺構の記録類の一部は現地事務所でを行い、現地調査終了後に、報告書作成に関わる遺構・遺物図版作成、原稿執筆などを埋文事業団で実施した。2015年度は、鈴木俊成（調査課長）の監理により編集作業を進め、印刷・刊行した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

『狐宮遺跡』「2 遺跡周辺の地理的環境」[桐原 2007] から一部修正・加筆して引用する。

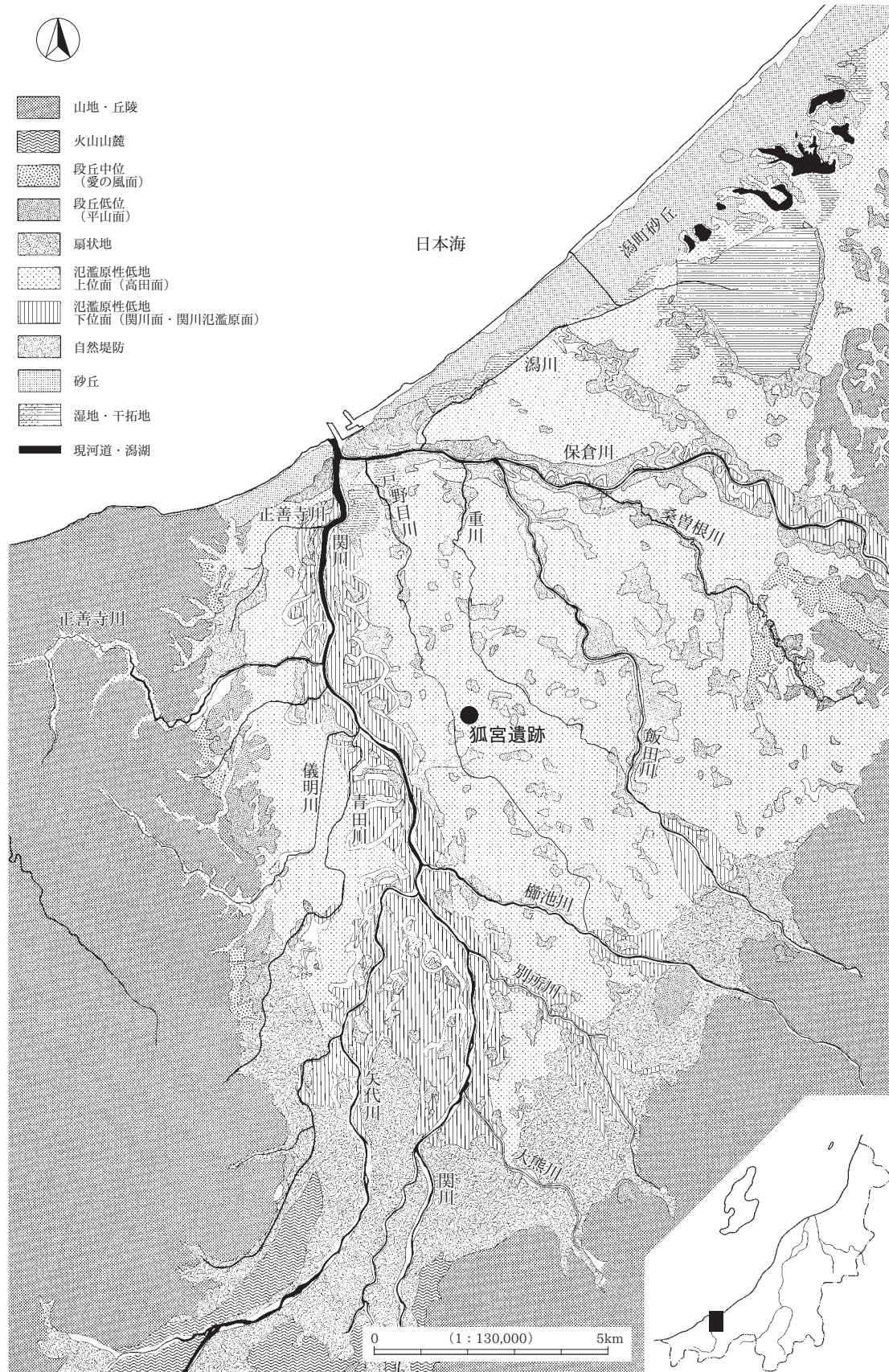
狐宮遺跡が立地する高田平野は、新潟県南西部に位置する沖積平野である。北辺は、長さ約 20km にわたり潟町砂丘が発達し、海岸と平野とを区画している。東辺から南東辺には、東頸城丘陵が広がり、柏崎平野・越後平野・十日町盆地・長野盆地と高田平野とを隔てている。東頸城丘陵北端には米山を主峰とする米山山地、南東部には信越国境をなす関田山脈、南端には斑尾山がそびえている。西辺には西頸城丘陵が広がっている。この丘陵は、海岸に沿って西方に延び、糸魚川市の平野部と高田平野とを隔てている。西頸城丘陵南方には西頸城山地が連なり、その北端には青田難波山、南端には主峰の火打山がそびえている。さらに、その南には、富士火山帯の北端をなす焼山及び妙高山の両火山がそびえ、平野南端には、妙高山の岩屑流・火砕流により形成された丘陵と接している。

平野には、これら周辺の山地・山脈、丘陵から多数の河川が流入している。平野最大の河川である関川は、火打山・妙高山及び長野県との境をなす高妻山・乙妻山の地域を水源とし、平野を西偏しながら北流し、日本海に注いでいる。途中、西頸城山地から矢代川・青田川などが、西頸城丘陵から儀明川・正善寺川などが関川に合流する。また、東頸城丘陵や関田山脈からは、大熊川・別所川・櫛池川・飯田川・保倉川などの中小河川が関川に合流する。平野の北東部では、東頸城丘陵・米山山地を水源とする吉川・大出口川・柿崎川などが平野に流れ出し、直接日本海に注いでいる。北東部から南西部にかけて、関川や矢代川をはじめ、大熊川・別所川・櫛池川・飯田川などにより形成された扇状地が発達している。

高田平野の地形面は階段状であり、最も低い関川氾濫原面（関川面）と最も高い高田面の 2 段が沖積段丘を形成している。狐宮遺跡がある高田面は主に礫・砂・シルトの互層からなる高田層によって形成された堆積面であり、その分布は平野の大部分を占める。平野部の中央部において高田面の表層地質やその珪藻遺骸について検討した結果、この地域は以前、沼沢地のような環境が広がっていたとことが明らかにされている [高田平原団体研究グループ 1962]。一方、関川面は、関川とその支流に沿って分布する氾濫原堆積物である関川層からなっている。平野に分布する遺跡の時代を検討した結果、高田面は古墳時代初頭から段丘化し始め、数回に及ぶ洪水性堆積物によって覆われながら平安時代には完全に段丘化したものと考えられている [高田平野団体研究グループ 1981、岡本 1999]。しかしながら、2005 年度の本遺跡の発掘調査で縄文時代草創期の石器や縄文時代後・晩期の土器が出土したことにより、少なくとも縄文時代後半期には人々が居住し得る環境が整っていた可能性があり、高田面の形成年代について検討が必要である。

飯田川と関川の間には、小規模な自然堤防が点在し、その分布は一定の方向性をもって配列している。その配列に従って灌漑水路が通り、戸野目川・重川のような小河川が流れているので、かつてはここに丘陵地から流れ出した川が流れているのではないかと推察されている [高野 2002]。このような自然堤防上の微高地に、現集落が成立している。

1 地理的環境



第3図 高田平野の地形分類図

(北陸地方建設局北陸技術事務所 1981；新潟県農地部農村総合整備課 1980・1981 を改変加筆)

2 歴史的環境

狐宮遺跡が所在する高田平野は、越国を分割した当初、越中国に含まれていた。大宝二年（702）に越中国から頸城郡・古志郡・魚沼郡・蒲原郡が分離し、越後国に編入される〔米沢 1980〕。高田平野周辺は、頸城郡に属し、越後国編入後は国府が置かれる。越後国府は、高田平野中央部、関川、櫛池川、矢代川が合流する付近にある今池遺跡周辺が推定地として有力視されている〔坂井ほか 1984〕。10世紀に成立したとされる『倭名類聚抄』によれば、頸城郡には、沼川・都宇・栗原・荒木・板倉・高津・物部・五十公・夷守・佐味の10郷が記されている。地名、式内社、遺跡分布などの検討から、狐宮遺跡のある戸野目川周辺は、関川下流域、重川下流域、飯田川下流域とともに都宇郷に推定されている〔相沢 2004〕。以下、都宇郷に所在する古代の集落遺跡について概観する。

古代の遺跡の多くは、飯田川、重川、戸野目川など中小河川が形成した自然堤防上に多く立地する。

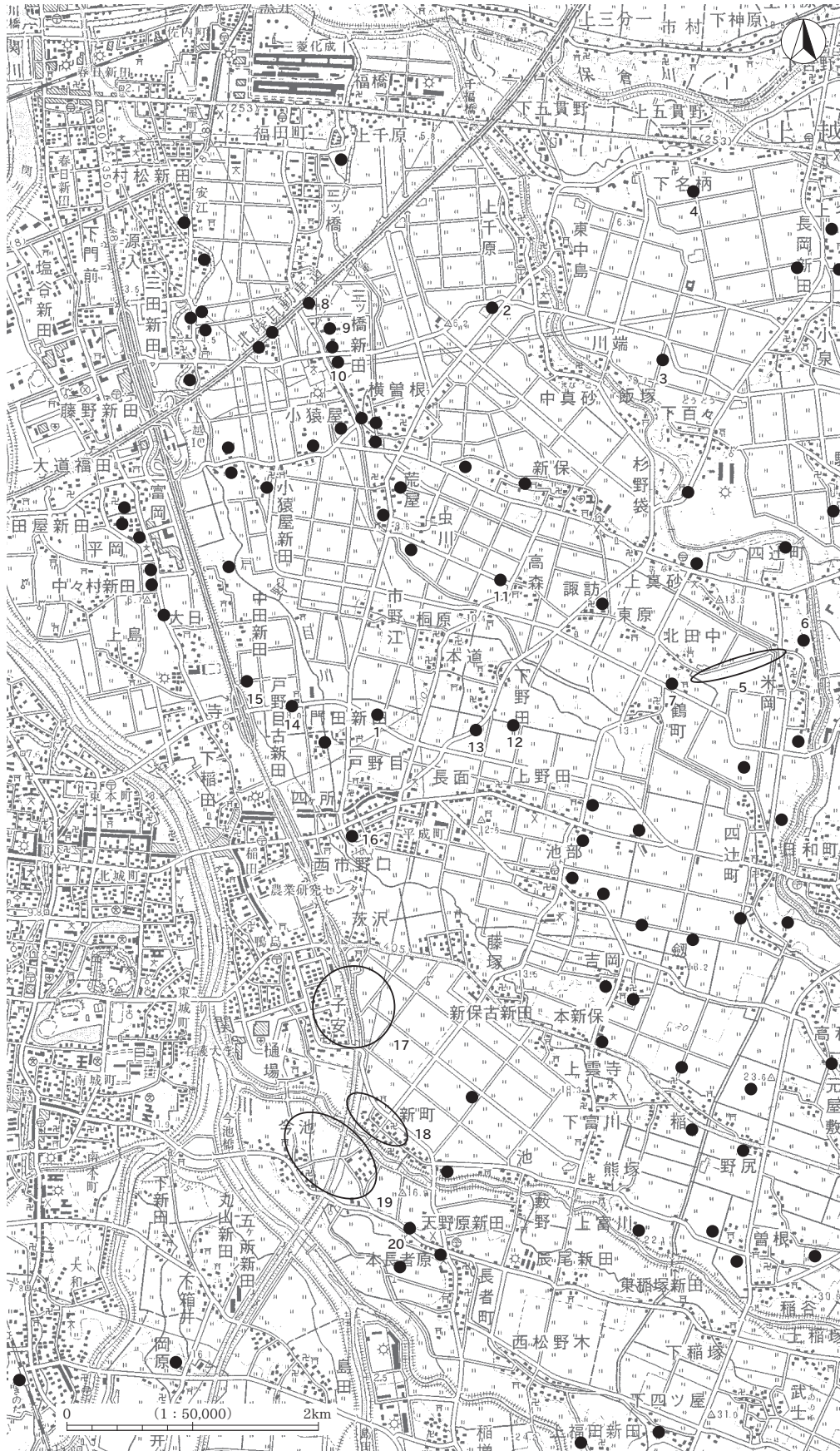
飯田川流域の遺跡は、古墳時代前期に形成し、断続して再び7世紀中葉、あるいは8世紀前葉から中葉に集落が営まれる遺跡が多い。津倉田遺跡（2）・前田遺跡（3）・下名柄古屋敷遺跡（4）・下割遺跡（5）などである。津倉田遺跡は、7世紀中葉～8世紀初頭の竪穴住居と掘立柱建物で集落が構成される。周辺地域と比べて律令期初期に成立した遺跡が多く、平野開発の先進的地域であったといえる。

重川流域の自然堤防上にある遺跡は、宮野遺跡（8）・岡原遺跡（9）・上押出遺跡（10）・保坂遺跡（11）・延命寺遺跡（12）・三角田遺跡（13）などがある。延命寺遺跡は、7世紀前葉に開発された集落で、7世紀後半に一時的に廃絶するが8世紀前葉～中葉に官衙的な機能を有した集落として再び営まれる〔山崎 2008〕。在地の有力者層や集落が地方行政の末端に取り込まれる過程を反映した遺跡である。三角田遺跡は、8世紀初頭と8世紀後半に再び大規模な農耕作域を持つ集落が営まれた〔沢田ほか 2006〕。

戸野目川流域の自然堤防上にある遺跡は、本遺跡のほかに越前遺跡（15）がある。新田開発や初期荘園の成立を背景に9世紀代に新たに営まれる集落が多い。越前遺跡は8世紀末～9世紀後半の建物群が区画の中に計画的に配置された集落で、多量の墨書土器や祭祀具・施釉陶器が出土した。公的機関や富裕層が関わった遺跡であると考えられている〔笹澤 2003b〕。

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	狐宮	縄文・古墳・平安	8	宮野	平安	15	越前	平安・中世
2	津倉田	古墳・飛鳥・奈良	9	岡原	奈良	16	中島廻り	弥生・古墳・奈良
3	前田	古墳・古代	10	上押出	平安	17	子安	弥生～中世
4	下名柄古屋敷	古墳・飛鳥～平安	11	保坂	平安	18	下新町	奈良・平安
5	下割	古墳・古代・中世	12	延命寺	飛鳥・奈良	19	今池	奈良・平安
6	堂古	古代・中世	13	三角田	奈良・平安	20	本長者原廃寺	古代
7	清水田	中世	14	屋敷割付	古代			

第1表 周辺の遺跡一覧表



第4図 上越三和道路関係の遺跡と周辺の古代遺跡分布図

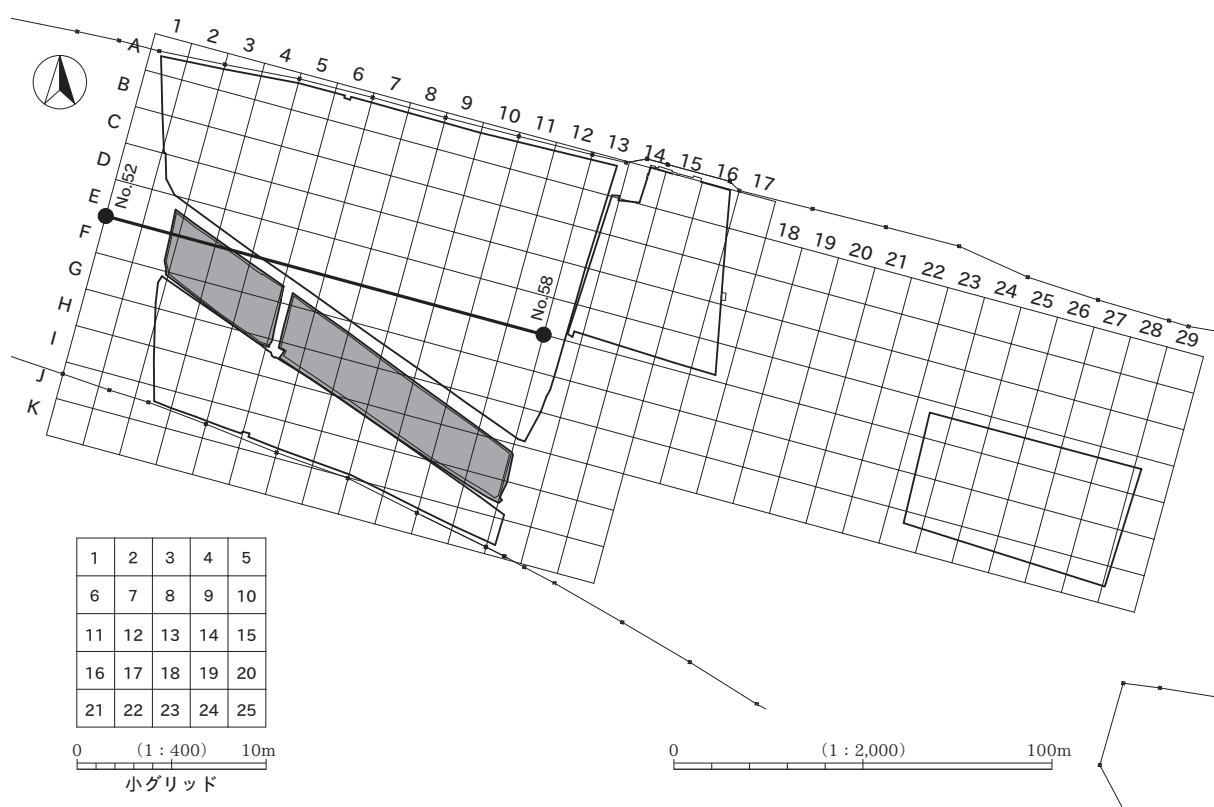
(国土地理院「高田東部・柿崎」1:50,000原図 2007年発行)

第Ⅲ章 調査の概要

1 グリッドの設定

グリッドは、上越三和道路の法線に沿うよう、道路建設予定地内センター杭2点を基準としている。センター杭 STA-No52 (1F杭：世界測地系 X=125308.9807、Y=-19554.9063) と STA-No58 (13F杭：世界測地系 X=125277.7351、Y=-19439.0515) を結んだ線を横軸とし、これに直交して起点を通る線を縦軸とする主軸を設定した。グリッド基準線の方位は、真北から15度16分東偏している。

調査では大小2種類のグリッドを使用した。大グリッドは10m間隔で、横軸では算用数字を使用して遺跡西端から東に向かって「1、2、3、4…」列、縦軸では北端から南に向かって「A、B、C、D…」列とし、大グリッド名は北西隅の基準線の交点により「1A、1B、1C…」と呼称した。小グリッドは大グリッドを2m方眼に25分割した。小グリッドは北西隅を1とし東に数え、南東隅を25として算用数字順で表した。グリッド表記は「7B1」のように呼称した。

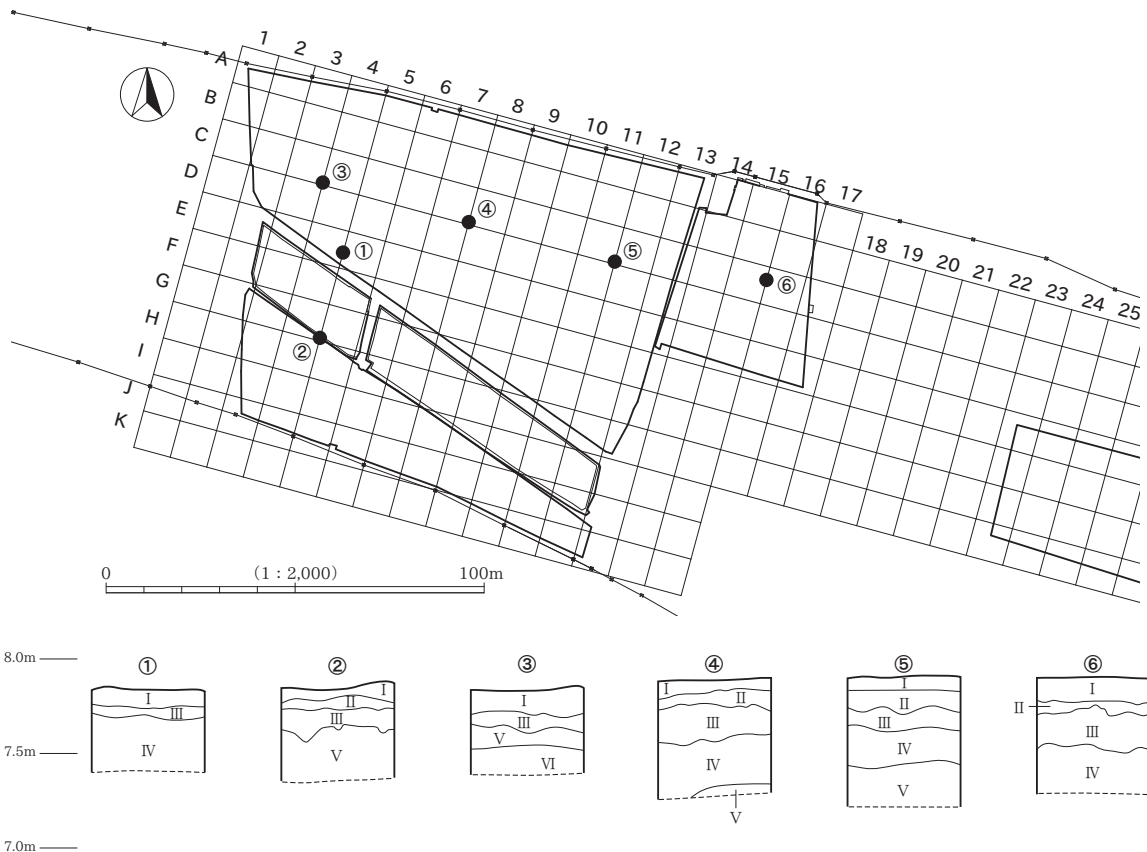


第5図 グリッド設定図

2 基本層序 (第6図)

今回の調査区域は、2005年度調査区間に位置し、基本層序は開渠壁面で確認したところ先の調査と同様であった。狐宮遺跡は南北にのびる微高地上に立地する。基本土層のV層とした黒色土は、平安時代の遺構面より下層であるが、堆積がグリッド10列付近の東側から急激に落ちこむ。その落ち込みを洪水堆積物であるIV層が埋め、古代の遺構が営まれた時には、東に緩く傾斜するが、ほぼ平坦となる。平安時代の遺構検出面は基本的にIV層上面であるが、グリッド6列以西ではIV層の堆積が薄い。遺構検出作業は、V層上面まで下げて行った。V層は、2005年度の調査で縄文時代後・晩期の遺物が出土し、土壌の放射性炭素年代測定では遺物の年代時期に近い約3,000年前の形成という結果を得ている。

- I層：暗褐色粘土 (7.5YR3/3) 粘性やや弱い。しまり強い (水田耕作土)。
- II層：褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性やや強い。しまりふつう。
- III層：灰褐色粘土 (7.5YR4/2) 粘性やや強い。しまりふつう (平安時代の遺物包含層)。
- IV層：明褐灰色シルト (7.5YR7/1) 粘性やや強い。しまりふつう (平安時代の遺構検出面)。
- V層：黒色粘土 (7.5YR2/1) 粘性強い。しまり強い (縄文時代の遺物出土)。
- VI層：灰オリーブシルト (5Y5/2) 粘性弱い。しまり弱い。



第6図 基本層序

第IV章 遺 構

1 概 要

遺構は、掘立柱建物 3 棟、井戸 3 基、土坑 18 基、ピット 41 基、溝 53 条、性格不明遺構 2 基を検出した。遺構の時期は、SK2145、SD2109 から出土した土器などから 9 世紀中葉の平安時代である。遺構はグリッド 4 ~ 10 列の間に多く、南北方向に分布している。

2 遺構の記述と表記方法

遺構の説明は、本文、観察表、図面図版、写真図版を用いる。

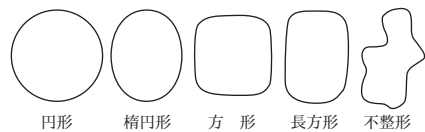
遺構名 遺構の呼称は、掘立柱建物 (SB)、井戸 (SE)、土坑 (SK)、ピット (P)、溝 (SD)、性格不明遺構 (SX) である。番号は、2005 年、2009 年度の調査からの続きの番号とした。掘立柱建物が 17 から、それ以外の遺構は 2100 から番号を付けた。2005 年度調査で発見した遺構の延長と判断できたものは、新たに番号を付さず、先の調査で付した番号で呼称した (SB7、SD240)。また、作業の過程で生じた欠番がある。

観察表 遺構の形状・計測値は、遺構検出面での数値である。掘立柱建物は、柱間の多い方を桁行、少ない方を梁行とした。ただし、柱間が同じ場合は長辺の方を桁行とし、正方形の場合は区別していない。建物軸は、南北方向に対する傾きを示す。また、遺構の平面及び断面の形状分類等は [加藤・荒川 1999]、覆土堆積状況の分類は [荒川ほか 2004] に準拠した(第 7・8 図)。遺構の切り合い関係は、新 > 旧と示した。

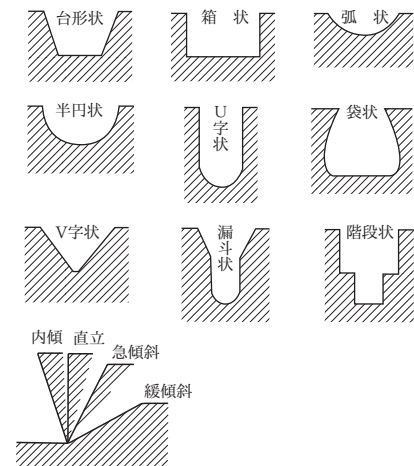
図面図版 遺構全体図と分割図、主要な遺構の個別図で構成している。土層断面図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修の 2004 年版『新版標準土色帖』を使用した。

遺構写真 調査の過程に応じた検出状況、断面、遺物出土状況、完掘状況写真を撮影しているが、本文で報告した遺構を中心に掲載した。

平面形態の分類

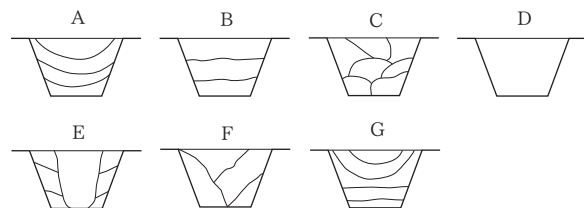


断面形態の分類



第 7 図 遺構の平面形態と断面形態の分類 [加藤・荒川 1999]

A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数層が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	覆土が単一層のもの。
E 柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F 斜位	斜めに堆積するもの。
G 水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。



第 8 図 遺構埋土の堆積状況の分類 [荒川ほか 2004 を一部改変]

3 遺 構 各 説

A 掘 立 柱 建 物

SB17 (図版 5・11・17・18)

4・5F グリッドで検出した建物の一部である。2005 年度調査区に一連の柱穴が検出されていないことから、道路側溝を残し調査できなかった範囲で柱穴列は終わっている可能性が高い。おそらく 2 間×2 間程度の建物であると想定する。建物軸は N-14° -E である。南側で検出した SD2251 は浅い溝で、建物の南縁に沿っている。3 基の柱穴、SD2251 とも遺物が皆無で、建物の時期の特定に至らなかった。

SB7 (図版 6・11・18・19)

7H グリッドで検出した 2 基の柱穴が、2005 年度調査で検出した SB7 に結びついた。南北棟の桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物となる。残念ながら北西隅と東側桁行の中間の柱穴は、排水のため設置した開渠で壊してしまった。建物軸は N-5° -E である。今回検出した 2 基の柱穴とも遺物の出土はないが、2005 年度検出の P730 から 9 世紀代の須恵器把手付瓶が出土している。

SB18 (図版 8・11・19・20)

9・10H グリッドに位置する桁行 2 間、梁行 2 間の東西棟の側柱建物である。建物軸は N-54° -E である。P2238、P2257 の柱穴には、柱根が残存していた。この建物だけ SB7～10 など周辺の建物と軸方向が異なるが、SB18 の南側、2005 年度調査区の 9I・J グリッドで検出した畑作溝（報告では小溝 7 群）と軸方向が同じである。遺物は P2238 から土師器の小片が出土したのみである。

B 井 戸

SE2142 (図版 7・12・20)

8H11 グリッドに位置する。断面形は漏斗状を呈する素掘りの井戸である。覆土 1～3 層は、IV 層のブロック土を含んだ V 層主体土で、人為的な埋土と考えられる。3 層土中から底部に穿孔のある土師器碗 (2) が正位で出土した。底面の近くに表面が焼けている重量 500g～10kg の礫 9 点の集積があり、その近くで瓢箪が出土した。時期は、出土遺物から 9 世紀中葉である。

SE2147 (図版 7・12・20)

9H12・17 グリッドに位置する。断面形は漏斗状を呈する素掘りの井戸で、覆土は 3 層に分層でき、水平堆積している。遺物は 1・3 層から須恵器杯、土師器無台碗・小甕などが出土し、時期は 9 世紀中葉である。

SE2246 (図版 4・12・20)

2F10 グリッドに位置しており、近世以降に作られた水路 (2005 年度調査の SD240) の縁際にある。覆土は 3 層に分層した。レンズ状堆積であるが、3 層は V 層土の崩落土で、1・2 層は炭化物の濃淡で分けたが、IV 層土ブロックが混じり人為的な埋土と考えられる。遺物は出土しなかったため、時期の特定はできない。

C 土 坑 ・ ピ ッ ト ・ 性 格 不 明 遺 構

SK2110 (図版 6・12・21)

7H10・15 グリッドに位置する。単層の浅い土坑で、土師器無台碗・小甕片と須恵器杯蓋片が出土した。

SK2111 (図版7・12・21)

8H16 グリッドに位置する。覆土はⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる人為的な埋土である。断面形は弧状で、底面は凹凸が著しい。同じような遺構が狐宮遺跡から西側 640m の所にある屋敷割付遺跡 [渡邊 2008] で多く検出されており、「人為的埋土土坑」として報告されている。遺物は、土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗などが出土したが、細片化したものが多い。

SK2113 (図版6・12)

7H12・13 グリッドに位置し、P2124 を切っている。覆土は単層で、浅い土坑である。遺物は、土師器無台碗・小甕の細片が出土した。

SK2118 (図版7・12・21)

8H17・18 グリッドに位置し、SX2150 と SD2133 を切っている。覆土はⅢ層土主体の単層で、底面の凹凸が著しい。遺物は細片であるが、須恵器突帯付四耳壺 (4)・無台杯、土師器無台碗・小甕など多く出土した。

SK2140 (図版7・12・21)

9I8 グリッドに位置する。断面形は弧状で、深さは浅い。覆土は、前述の SK2111 と同様のⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる人為的な埋土である。遺物は土師器無台碗の小片が出土した。

SK2141 (図版7・12・21)

9I8 グリッドに位置する。SK2140 の南隣にあり、覆土は同じくⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる埋土である。遺物は、土師器小甕の小片が出土した。

SK2145 (図版7・12・21)

8I5 グリッドに位置する。畑作溝と考えられる溝群の南端にある。遺構上部は SD2138 に切られている。覆土は3層に分層でき、3層中から完形の土器3点が出土した。上から順に、正位で出土した体部に墨書が記されている土師器無台碗 (7)、その下に土師器無台碗 (6) が正位で出土した。さらにその下、底面近くから須恵器の小型短頸壺 (5) が出土した。この遺構は、遺物の出土状況から地鎮を行った埋納遺構ではないかと考えている。時期は、周辺の遺構より古く9世紀後葉である。

SK2148 (図版8・13・21)

10I1 グリッドに位置する。断面形状が箱型を呈する。土師器の無台碗 (8) が出土した。

SK2152 (図版5・13・22)

5F17 に位置する。断面形は弧状である。覆土は単層で、V層主体にIV層がブロック状に混じる。底面は凸凹して、人為的埋土土坑の類である。遺物は須恵器有台杯・甕の小片が出土している。

SK2153 (図版5・13・22)

5F13 グリッドに位置する。断面形が弧状で、覆土はIV層が主体である。遺物は出土しなかった。

SK2154 (図版5・13・22)

5G4 グリッドに位置する。断面形が半円状である。覆土はV層主体にIV層ブロックが混じる。人為的埋土である。遺物は須恵器の杯蓋、土師器の小甕片などが出土した。

SK2156 (図版5・13・22)

5F11 グリッドに位置する。断面形が弧状で、覆土はIV層が主体である。遺物は出土しなかった。

SK2211 (図版6・13・22)

6F25 グリッドに位置する。覆土は2層に分層した。1層はV層主体にIV層ブロックが混じり、2層は

3 遺 構 各 説

IV層主体にV層ブロックが混じる。人為的埋土土坑である。遺物は出土しなかった。

SK2213 (図版 6・13・22)

6F5 グリッドに位置する。断面形が弧状である。覆土はIII層主体であるが、遺物は出土しなかった。

SK2230 (図版 6・13・22)

7G12 グリッドに位置する。SD2225 を切っている。覆土はIII層主体で3層に分層でき、レンズ状に堆積する。土坑としたが、形状からすると柱穴の掘形の可能性もある。遺物は出土しなかった。

SK2252 (図版 5・13)

5F7 グリッドに位置する。SD2251 を切っている。覆土はV層主体にIV層がブロックで混じり、人為的埋土土坑と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK2236 (図版図版 7・13・23)

8H5・10 グリッドに位置する。覆土は3層に分層した。1層、3層はIII層にIV層ブロックが混じる人為的な埋土であるが、2層は自然流入土である。1度埋めてから再度埋めるのに時間差が見られる。遺物は須恵器杯・有台杯・杯蓋片が出土した。

P2119 (図版 6・13・17・23)

7G23 グリッドに位置する。柱根が残存する柱穴で、周辺に他の柱穴が確認できなかったことから建物と断定できない。柱根は中が朽ちたのか空洞になっていて、その中に須恵器の甕片(9)を内面側に下に伏せた状態で置き、その上にカマドの炉壁片と考えられるもの2点(10・11)が据えた状態であった。

SX2150 (図版 7・13・23)

8H13 グリッドに位置する。SK2118 に切られている。形状は隅丸長方形で、深さは浅い。底面は炭化物に覆われていて、細片のものが多く須恵器杯・有台杯・杯蓋(13)・甕、土師器無台碗・小甕などが出土した。性格不明遺構に含めたが、同じように底面が炭層で覆われている2005年度調査で検出したSK722と同じ性格の遺構の可能性はある。

D 溝

畑 跡 溝の中で、細長い数条の溝が平行しているものは畑の耕作痕と考えられるものである。6・7Gグリッドで検出したSD2205・SD2207・SD2208・SD2210・SD2214などの溝群、8・9Hグリッドで検出したSD2122・SD2130～2134の溝群が相当する。溝ははっきり掘り込みが確認できるもの、痕跡状に微かに残っているものなどがある。これらの畑跡は、SB7を含めた2005年度調査で検出した6・7I周辺の建物群と軸方向がほぼ同じで、この建物群に伴う畑跡と考えられる(図版2)。

区画溝 6・7Gグリッド周辺の溝群と同じ方向で、幅広で直線状にのびるSD2109(図版23)は区画溝と考えられる。断面形は半円状で、畑溝と比べて掘り込みも深い。遺物は、須恵器無台杯(14・15)・有台杯・杯蓋・甕、土師器無台碗(17)・長甕・小甕、黒色土器無台碗(16)など多く出土した。時期は9世紀中葉～後葉と考えられる。この溝は、南側にあるSB7などの建物群を区画しているものとする。また、SD2135(図版23)は、SD2109の北側に位置し、平行している。須恵器無台杯(19)・杯蓋・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗などの碎片が出土した。SB7周辺の建物群からの廃棄場のひとつと考えられる。

第V章 遺 物

1 概 要

出土した遺物は、古墳時代の土器が2点、古代の土器が浅箱（箱サイズ54×34×10cm）で8箱、木製品が10箱、土製品が2点である。古墳時代の土器は下層（V層）調査で出土したが、小片で図化しなかった。古代の土器は9世紀中葉が主体で、井戸、土坑、溝から主に出土した。

2 土 器

SE2142（図版14・24-1・2） 1は佐渡産の須恵器無台杯で、底部回転ヘラ切り、内面に漆が少量付着している。2は底部回転糸切りの土師器無台碗で、底部の中心を穿孔している。器面全体は劣化が著しいが、内面は滑らかで部分的にミガキ痕が残っている。ほかに須恵器の杯蓋・甕片、土師器の内黒碗・小甕片などが出土した。

SE2147（図版14・24-3） 3は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。ほかに須恵器の甕、土師器の無台碗・小甕などが出土した。

SK2118（図版14・24-4） 4は須恵器突帯付四耳壺の体部片で、外面は平行叩き目、内面はナデられるが漆が付着している。西頸城丘陵の滝寺窯産と考えられる。ほかに須恵器の無台杯、土師器の無台碗・長甕・小甕などの細片が出土している。時期は、9世紀中葉である。

SK2145（図版14・24・25-5～7） 5は須恵器小型短頸壺の完形品で、底部は回転糸切り、口縁から肩にかけて自然釉がかかる。滝寺窯などの西頸城丘陵産である。6・7は底部回転糸切りの土師器無台碗で、6の内面は丁寧にナデられている。7の体部下位は手持ちでケズられ、内面はミガキである。体部外面の墨書は墨痕がうすくはっきりしないが、「☆」記号の可能性はある。時期は、9世紀後葉である。

SK2148（図版14・24-8） 8は底部回転糸切りの土師器無台碗である。全体的に劣化が進んでいるが、内面の一部に煤と思われる付着が見られる。

P2119（図版14・24・25-9～11） 9は須恵器甕の体部片で、内外面の一部に漆が付着するが、外面の漆は破砕面にも少量見られることから補修ないし水漏れ防止のためと推測される。10・11は、表面の一部に被熱痕が見られ、カマドの炉壁片と考えておきたい。胎土には1cm以下の摩耗が進んだ礫が含まれている。軟質の岩石か粘土かの判断はできない。

P2146（図版14・24-12） 12は佐渡産の須恵器無台杯で、底部回転ヘラ切りである。胎土には微細な白色粒が目立つ。

SX2150（図版14・24-13・14） 13は須恵器杯蓋で胎土から末野窯などの東頸城丘陵産と考えられる。天井部外面はロクロケズリ、そのほかはロクロナデである。14は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。胎土に白色粒が多く含まれる。ほかに土師器の碗・長甕・小甕、須恵器の有台杯・甕などの細片が出土した。

SD2109（図版14・24-15～17） 15は須恵器無台杯で佐渡産である。底部付近の劣化が著しく、切り

3 木製品

離し痕は見えない。内面の底部と体部の境には凹帯が明瞭である。16は内面が黒色された土師器碗である。内面は滑らかにミガかれるが、外面は劣化が著しく成形・調整痕は見えない。17は劣化著しく調整痕は見えないが、底部径が小さく体部の高いタイプである。ほかに土師器の長甕・小甕・鍋、須恵器の杯蓋・甕・壺などの細片が出土した。

SD2132(図版14・24・25-18) 18は底部回転糸切りの土師器無台碗で、底部に「林」と刻書されている。1画目と5画目を一線で記し、最後の8画目を土器体部にまで引いている。また、2005年度調査で、土師器無台碗(292)の底部に「林」と墨書されたものが出土している。器面全体は劣化が著しいが底部内面は平滑に仕上げられている。

SD2135(図版14・24-19・20) 19は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。胎土に白色粒子が目立つ。20は胎土から西頸城丘陵産の須恵器甕と考えられる。口縁の内外面には部分的にカキ目痕が残っている。

遺構外出土(図版15・24-21～26) 21は滝寺窯など西頸城丘陵産の須恵器杯蓋で、天井部外面はロクロケズリ、ほかはロクロナデであるが、内面は滑らかで転用碗の可能性も考慮したい。22の須恵器有台杯、23・24の須恵器無台杯は末野窯など東頸城丘陵産である。いずれも底部回転ヘラ切りで、24の器面は劣化が著しい。25は須恵器広口瓶の口縁部片である。26は須恵器甕の口縁である。26の胎土には5mm前後の礫を含み、焼成はあまく、色調は灰色である。体部外面には平行叩き目が付き、内面は不明瞭だが同心円の当て具痕が見られる。

3 木製品(図版15・25-27～31)

SE2142から出土した27は、曲物の側板で木釘孔がある。28は曲物の底板で、内面の全面に黒漆が付着している。SE2147から出土した29は、曲物の蓋板で、内面に刃物痕がある。SB18-P2238出土の30とSB18-P2257出土の31は、柱根であるが、腐朽が著しく、詳細は不明である。

第Ⅵ章 ま と め

1 2014年度の調査成果について

狐宮遺跡の9世紀代に営まれた平安時代の集落は、掘立柱建物・井戸・畑溝で構成する遺構群が南北方向の微高地上に展開している。これまでの調査で、調査区北側で検出した遺構群は9世紀前葉で、調査区東から南側で検出した遺構群は9世紀中葉～後葉であることが判明している〔飯坂ほか2007・高橋ほか2011〕。今回調査した地点は、集落の南側遺構群に位置する。検出した主な遺構は、掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑18基、溝53条で、時期は出土した土器から9世紀中葉が主体と考えている。

掘立柱建物3棟のうち新たに見つかったのが2棟(SB17・18)で、不明であった柱列の柱穴を検出して建物の全容が判明したものの1棟(SB7)である。SB17の北辺側柱列は不明であるが、SB7・SB18は柱間2間の小規模な建物である。SB7・SB18周辺もこれまで検出した建物群同様に素掘りの井戸(SE2142・SE2147)が点在し畑溝が広がる。SK2145には、須恵器の小型短頸壺、土師器無台椀、墨書のある土師器無台椀(墨書は「☆」か)が底部から順に埋められており、地鎮などの祭祀行為の可能性がある。

遺物では、SD2132から土師器椀(18)の底面に「林」と刻書されたものが出土したが、2005年の調査においてもSB7周辺の包含層から土師器無台椀の底面に「林」と墨書されたものが出土している。

2 総 括

上越三和道路関係の狐宮遺跡の発掘調査は今回をもって終了する。ここでは、これまでの調査成果を概略する。

遺跡の始まりは、縄文時代草創期にある。出土品は2点の尖頭器のみであるが、高田平野の成り立ちを考える上で重要な資料となった。2005年度調査の古墳時代の陥穴は、新潟県初例である。陥穴は縄文時代に多い遺構であるが、時期は残存した逆茂木の放射性炭素年代測定と古墳時代の遺物が散見されたことから判断した。

平安時代になり本遺跡に集落が形成される。狐宮遺跡の東側は、三角田遺跡〔沢田ほか2006〕・延命寺遺跡〔山崎ほか2008〕でも検出されている洪水堆積層(Ⅳ層)が堆積する。平安時代の遺構はこの洪水堆積層上で検出でき、洪水堆積層下からは縄文時代、古墳時代の遺物が少量出土した。洪水堆積層の時期は三角田遺跡から出土した遺物を基に8世紀中葉～9世紀前葉であることが明らかになっている〔沢田ほか前掲〕。

集落形成の始まりは調査区北側で8世紀代の遺物もやや散見するが中心は9世紀前葉で、柱間3間以上の掘立柱建物が建てられる。また、遺構は建物、井戸、畑溝で構成することから、農耕開発を基盤とした集落と考えた。9世中葉からは洪水堆積層面の東から南側に集落の中心が移る。建物の規模が小規模化し、散村化した傾向が見られる。

関川右岸の古代遺跡は、8世紀代の三角田遺跡・延命寺遺跡などの集落が重川周辺に点在していたが、洪水を期に9世紀以降、狐宮遺跡、越前遺跡〔笹澤2003b〕のある戸野目川周辺の微高地を拠点に集落が展開したと考えられる。

引用・参考文献

- 相沢 央 2004 『上越市史』通史編Ⅰ 自然・原始・古代 新潟県上越市
- 荒川隆史^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰^{ほか} 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第171集 狐宮遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀^{ほか} 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第230集 下割遺跡Ⅴ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岡本郁栄 1999 「序章 第1節 新潟県の地形概観」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院
- 小田由美子^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第149集 滝寺古窯跡・大貫古窯跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 「第4章 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院
- 春日真実 2011 「上越市岩ノ原遺跡出土の古代土器について」『研究紀要』6 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 桐原雅史 2007 「2 遺跡周辺の地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第171集 狐宮遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂井秀弥^{ほか} 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 笹澤正史 2003a 「第5章 第1節 時代概説」『上越市史』資料編2 考古 新潟県上越市
- 笹澤正史 2003b 「越前遺跡」『上越市史』資料編2 考古 新潟県上越市
- 沢田 敦^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第154集 三角田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高田平原団体グループ 1962 「高田平原の沖積層について—高田平原の団体研究・そのⅣ—」『新潟大学教育学部高田分校研究紀要』第7号 新潟大学教育学部高田分校
- 高田平野団体研究グループ 1981 「高田平野の第四系と形成史—新潟県の第四系・そのXXIV—」『新潟大学教育学部高田分校研究紀要』第25号 新潟大学教育学部高田分校
- 高野武男 2002 「第1章 地形・地質 第2節 上越市周辺地域の地形1 沖積平野の地形」『上越市史 資料編1 自然』新潟県上越市
- 高橋保雄^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第182集 岩ノ原遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄^{ほか} 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第227集 狐宮遺跡Ⅱ・下割遺跡Ⅳ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄^{ほか} 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第236集 二反割遺跡・延命寺遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 新潟県農地部農村総合整備課 1980・1989 『新潟県上越地域土地分類基本調査—高田東部・高田西部』
- 北陸地方建設局北陸技術事務所 1981 『新潟平野部の地盤図集（柏崎・高田平野編）—地形分類図およびN値等深線図（2葉）』
- 山崎忠良^{ほか} 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第120集 下割遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第134集 下割遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第201集 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』第32巻6号 信濃史学会
- 渡邊裕之^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第185集 屋敷割付遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

掘立柱建物観察表

遺構名	SB17	位置	4・5F			年代		建物軸方位	床面積 (㎡)	
構造	2間以上		短辺 (m)			9世紀		N-14°-E	柱穴	柱穴間隔 (m)
柱穴	形状	断面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	柱根・痕	出土遺物	P2245-P2248	2.00
P2245	円形	皿状	0.60	0.55	0.47	7.03	痕		P2248-P2250	2.10
P2248	円形	弧状	0.55	0.52	0.38	7.13				
P2250		U字状	(0.32)		0.44	7.06				

遺構名	SB18	位置	9・10H			年代		建物軸方位	床面積 (㎡)	
構造	東西棟側柱建物2間×2間		短辺 (m)			9世紀		N-54°-E	柱穴	柱穴間隔 (m)
柱穴	形状	断面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	柱根・痕	出土遺物	P2233-P2259	1.43
P2233	不整形	半円状	0.52	0.44	0.50	6.67	柱痕状		P2259-P2238	1.93
P2235	楕円形	U字状	0.42	0.34	0.30	6.77			P2238-P2240	1.81
P2241	楕円形	U字状	0.54	0.28	0.55	6.58			P2240-P2257	1.79
P2259	円形	半円状	0.42	0.39	0.38	6.67	柱痕状		P2257-P2258	1.71
P2238	円形	半円状	(0.46)		0.54	6.84	柱根	土師器碗	P2258-P2241	1.64
P2240	円形	U字状	0.50	0.46	0.53	6.69			P2241-P2235	1.69
P2257	楕円形	箱状	0.57	0.45	0.37	6.56	柱根		P2235-P2233	1.76
P2258	不整形	半円状	0.61	0.46	0.45	6.91	柱痕状			

遺構名	SB7	位置	7H			年代		建物軸方位	床面積 (㎡)	
構造	南北棟側柱建物2間×2間		短辺 (m)			9世紀		N-5°-E	柱穴	柱穴間隔 (m)
柱穴	形状	断面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	柱根・痕	出土遺物	P728 - P729	2.32
P728	楕円形		0.58	0.46	0.76	6.98	痕		P729 - P730	2.06
P729	楕円形		0.60	0.44	0.73	6.95	根		P730 - P737	2.66
P730	楕円形		0.92	0.64	0.89	6.81	痕		P737 - P2151	4.80
P737	方形		1.20	1.10	0.91	6.84	痕		P2151-P2120	2.49
P2120	不整形	U字状	0.50	0.50	0.52	6.97	痕			
P2151	楕円形	半円状	0.86	0.55	0.74	6.76	痕			

狐宮遺跡遺構観察表 (1)

種別	番号	グリッド	検出層位	覆土 (埋土)	方位	長 (m)	幅 (m)	深 (m)	平面形	断面形	切りあい (新>古)	備考
SE	2142	8H11	IV	水平		1.90	1.54	1.31	不整形	漏斗状		素掘りの井戸 遺物多、土師器内黒碗・碗・長囊・小囊、須恵器杯・杯蓋・甕
SE	2147	9H12・17	IV	水平		1.60	1.29	1.12	不整形	漏斗状	SE2147>SD2132 SE2147>SX2239	素掘りの井戸 土師器碗・小囊、須恵器杯・甕
SE	2246	2F10	IV	レンズ状		0.84	0.79	0.96	不整形	U字状		素掘りの井戸?
SK	2110	7H10・15	IV	単層		1.30	1.13	0.08	不整形	楕円形		土師器碗・小囊、須恵器杯蓋
SK	2111	8H16	IV	単層		1.97	1.26	0.14	隅丸長方形	弧状		土師器碗・内黒・長囊・小囊、須恵器杯・壺
SK	2113	7H12・13	IV	単層		0.95	0.64	0.1	楕円形	弧状	SK2113>P2124	土師器碗・小囊
SK	2118	8H17・18	IV	単層		2.12	1.73	0.17	隅丸長方形	弧状	SK2118>SX2150 SK2118>SD2133	遺物多い、土師器碗・長囊・小囊、須恵器杯・突帯付四耳壺
SK	2140	9I3・8	IV	単層		1.21	1.06	0.13	円形	弧状		土師器碗
SK	2141	9I8	IV	単層		1.06	0.72	0.04	楕円形	弧状		土師器小囊
SK	2145	8I5	IV	レンズ状		0.70	0.64	0.98	不整形	U字状	P2145<SD2138	完形の土師器碗2点、須恵器小型短頸壺が埋められていた
SK	2148	10I1	IV	レンズ状		0.89	0.79	0.46	円形	箱状		土師器碗
SK	2152	5F17	V	単層		1.40	1.14	0.24	楕円形	弧状		須恵器有台杯・甕片
SK	2153	5F13	V	レンズ状		1.11	0.77	0.15	楕円形	弧状		
SK	2154	5G4	V	単層		1.83	1.75	0.42	不整形	半円状		須恵器杯蓋、土師器小囊
SK	2156	5F11	V	単層		0.86	0.70	0.09	楕円形	弧状	SK2156>SD2253	
SK	2211	6F25	IV	斜位		(0.98)		0.27		弧状		開渠で北側欠損
SK	2213	6F5	IV	単層		0.99	0.64	0.09	不整形	楕円形		
SK	2216	7G11	IV	単層		(0.59)		0.09	弧状		SD2219>SK2216<SD2225	土師器碗片
SK	2230	7G12	IV	レンズ状		0.83	0.76	0.68	円形	U字状	SK2230>SD2225	
SK	2236	8H5・10	IV	レンズ状		2.23	1.66	0.41	不整形	半円状		須恵器杯・有台杯・杯蓋
SK	2252	5F7	V	単層		1.66		0.2		弧状	SK2252>SD2251	開渠で北側欠損
SX	2150	8H13	IV	水平		3.16	1.82	0.09	隅丸長方形	弧状	SX2150<P2157 SX2150<SK2118	遺物多い、土師器碗・長囊・小囊、須恵器杯・有台杯・杯蓋・甕
SX	2239	9H12・17	IV	単層		1.24	1.09	0.09	不整形	弧状	SX2239<SE2147	土師器碗・小囊、須恵器杯
SD	2100	11I15-12I14	IV	単層	N-85°-W	8.25	0.35	0.11		弧状		
SD	2101	12I1-11	IV	単層	N-3°-W	4.16	0.32	0.12		弧状		
SD	2102	11I18-11J5	IV	単層	N-25°-W	5.45	0.37	0.18		半円状		
SD	2104	6H10-7H12	IV	単層	N-48°-W	6.06	0.42	0.07		弧状		
SD	2105	6H8・9	IV	単層	N-47°-W (2.37)	0.31	0.05			弧状		
SD	2106	7H1・2	IV	単層	N-49°-W	3.87	0.72	0.04		弧状	SD2106>P2117	土師器碗・小囊、須恵器杯・壺
SD	2109	6G23-8H25	IV	レンズ状	N-77°-W	16.29	0.94	0.15		半円状		
SD	2114	7H2	IV	単層	N-33°-W	1.78	0.73	0.1		弧状		土師器碗・長囊、須恵器杯・杯蓋
SD	2115	7H9・10	IV	単層	N-89°-W	1.85	0.27	0.05		弧状		
SD	2116	7H9・10	IV	単層	N-82°-E	1.00	0.44	0.05		弧状		土師器碗
SD	2118	7G12・13	IV	レンズ状	N-88°-E	0.97	0.26	0.15				土師器碗・長囊・小囊
SD	2121	8H21-23	IV	単層	N-56°-W	4.12	0.32	0.03		弧状		
SD	2122	8H18・19	IV	単層	N-90°-E	3.56	0.35	0.08		弧状		須恵器甕
SD	2125	7H20・8H16	IV	レンズ状	N-75°-W	2.90	0.58	0.15		箱状		土師器碗・長囊、須恵器杯・有台杯・壺
SD	2126	8H1・6	IV	単層	N-51°-W	2.35	0.68	0.12		弧状		土師器碗・長囊・小囊、須恵器杯
SD	2127	8H7	IV	単層	N-58°-W	1.51	0.54	0.09		弧状		土師器碗・長囊、須恵器甕
SD	2130	8H24-9H21	IV	単層	N-90°-E	4.67	0.37	0.07		弧状	SD2130>SD2139	土師器碗・長囊
SD	2131	8H24-9H17	IV	単層	N-90°-E	5.88	0.26	0.05		弧状	SD2131>SD2139	土師器碗
SD	2132	8H20-9H11	IV	単層	N-88°-E	3.90	0.34	0.08		弧状		土師器碗
SD	2133	8H18-14	IV	単層	N-90°-E (3.71)	0.29	0.05			弧状	SD2133<SK2118	土師器黒色碗・碗、須恵器杯・甕
SD	2134	8H25-9H22	IV	単層	N-90°-E	5.71	0.21	0.07		弧状		

観 察 表

狐宮遺跡遺構観察表 (2)

種別	番号	グリッド	検出層位	覆土(埋土)	方位	長(m)	幅(m)	深(m)	平面形	断面形	切りあい(新>古)	備考
SD	2135	6G19-7G16	IV	レンズ状	N-84°-W	4.13	1.00	0.1		箱状		遺物多、土師器内黒・小囊・碗・長囊、須恵器囊・杯蓋・杯・囊・壺
SD	2137	8H23・24	IV	単層	N-50°-W	2.10	0.63	0.16		弧状		
SD	2138	8I5-9I1	IV	単層	N-53°-W	2.27	0.55	0.07		弧状	SD2138>P2145	土師器長囊
SD	2139	8H19-25	IV	単層	N-9°-W	(1.78)	0.61	0.08		弧状	SD2139<SD2130 SD2139<SD2131	土師器碗
SD	2143	6H4・5	IV	単層	N-58°-W	2.64	0.57	0.04		弧状	SD2143>SD2144	
SD	2144	6H3-7G21	IV	レンズ状	N-85°-W	6.64	0.67	0.06		弧状	SD2144<SD2143	土師器碗・長囊、須恵器囊
SD	2149	10I19-24	IV	単層	N-25°-E	(1.46)	0.51	0.05		弧状		
SD	2202	6G9	IV	単層	N-85°-W	(0.9)	0.45	0.04		弧状		土師器小囊
SD	2204	6F22	IV	単層	N-81°-E	(1.03)	0.31	0.06		弧状		
SD	2205	6G4・5	IV	単層	N-87°-E	5.44	0.27	0.05		弧状	SD2205<P2217	
SD	2206	7G1	IV	単層	N-75°-W	1.17	0.31	0.05		弧状		土師器長囊
SD	2207	6G8・9・10	IV	単層	N-74°-W	(4.43)	0.34	0.07		弧状		土師器長囊
SD	2208	6G13-15	IV	単層	N-79°-W	6.38	0.40	0.06		弧状		土師器長囊・小囊
SD	2209	6G3	IV	単層	N-82°-W	(0.5)	0.28	0.04				
SD	2210	6G13-15	IV	単層	N-87°-W	7.31	0.28	0.03		弧状		土師器小囊
SD	2212	7G6	IV	単層	N-87°-W	2.20	0.35	0.05		弧状		
SD	2214	6G18-20	IV	単層	N-90°-W	(5.66)	0.32	0.04		弧状	SD2214<SD2225	須恵器杯蓋、土師器小囊
SD	2215	7G1	IV	単層	N-84°-W	1.48	0.41	0.06		弧状		土師器長囊
SD	2218	7G12・13	IV	水平	N-88°-W	0.97	0.33	0.15		半円状		
SD	2219	7G11	IV	単層	N-89°-W	1.90	0.30	0.1		弧状	SD2219>SK2216	
SD	2220	6G19・20	IV	単層	N-86°-W	2.39	0.36	0.03				
SD	2221	7G19・20	IV	単層	N-89°-W	2.20	0.29	0.07		弧状		
SD	2222	7G10・15	IV	単層	N-62°-E	(2.02)	0.26	0.13		弧状		
SD	2223	8G12	IV	単層	N-82°-W	1.12	0.40	0.14		弧状		土師器碗
SD	2224	7G13	IV	単層	N-24°-E	1.17	0.36	0.08				
SD	2225	7G11-13	IV	レンズ状	N-81°-W	5.36	0.53	0.22		半円状	SD2225<SK2230	須恵器杯・壺、土師器碗・長囊・小囊
SD	2229	8G12	IV	レンズ状	N-48°-W	1.05	0.46	0.05		弧状		土師器碗・長囊、須恵器囊
SD	2242	4E10	IV	単層	N-70°-W	2.90	0.33	0.15		弧状		
SD	2244	3E25	IV		N-47°-E	2.00	0.36	0.12		弧状		
SD	2247	5F6	IV	単層	N-73°-E	(1.34)	0.31	0.1		弧状	SD2247>P2250	
SD	2251	4F15・5F11	IV	単層	N-73°-W	5.34	0.88	0.08		弧状	P2254<SD2251<SK2252 SD2251>SD2253	
SD	2253	5F11	IV	単層	N-74°-E	(1.68)	0.27	0.1		弧状	SK2156>SD2253	
SD	2255	5F13・18	IV	単層	N-23°-W	4.67	0.30	0.12				
P	2103	6H2	IV	単層		0.62			楕円形	弧状		開渠で西側欠損
P	2107	7H6	IV	柱痕状		0.35	0.33	0.26	円形	U字状		
P	2108	6H15	IV	柱痕状		0.38	0.34	0.46	円形	U字状		土師器小囊、須恵器壺
P	2112	6H10	IV	レンズ状		0.34	0.31	0.44	円形	U字状		土師器碗
P	2117	7H7	IV	柱痕・レンズ状		0.33	0.33	0.29	円形	U字状	P2117<SD2106	
P	2119	7G23	IV	柱痕状		0.74	0.71	0.49	円形	半円状		須恵器囊、炉壁片?、空洞材
P	2120		IV	柱痕状		0.50	0.50	0.52	不整円形	U字状		SB7柱穴
P	2124	7H8	IV	柱痕状		0.38	0.34	0.35	円形	U字状	P2124>SK2113	土師器小囊、須恵器杯
P	2128	8H17	IV	レンズ状		0.34	0.33	0.2	円形	箱状		土師器碗、須恵器有台杯
P	2129	8H17	IV	柱痕状		0.44	0.34	0.28	楕円形	U字状		
P	2136	8H16	IV	柱痕状		0.40	0.35	0.37	円形	U字状		
P	2146	7H15	IV	レンズ状		0.34	0.30	0.4	円形	U字状		須恵器杯
P	2151	7H17・18	IV	柱痕状		0.86	0.55	0.74	楕円形	半円状		SB7柱穴
P	2155	5H5	IV	単層		0.40	0.38	0.2	円形	半円状		
P	2157	8H13・14	IV	レンズ状		0.65	0.50	0.43	楕円形	半円状	P2157>SX2150	土師器内黒碗、須恵器杯
P	2200	6F23	IV	柱痕状		0.38	0.38	0.36	円形	半円状		
P	2201	6F4	IV	レンズ状		0.36	0.34	0.22	円形	半円状		
P	2203	6G3	IV	単層		0.33	0.27	0.27	円形	U字状		
P	2217	6G5	IV	単層		0.37	0.35	0.36	円形	U字状	P2217>SD2205	
P	2226	8G18	IV	単層		0.30	0.29	0.12	円形			
P	2227	8G21	IV	単層		0.23	0.19	0.29	楕円形	U字状		土師器碗
P	2228	8G18	IV	柱痕状		0.35	0.33	0.3	円形	U字状		
P	2231	8G24	IV	柱痕状		0.36	0.34	0.36	円形	U字状		
P	2232	8G25	IV	柱痕状		0.47	0.42	0.35	円形	半円状		土師器内黒碗
P	2233	9H14	IV	柱痕状		0.52	0.44	0.5	不整円形	半円状		SB18柱穴
P	2234	9H1	IV	柱痕状		0.36	0.26	0.34	楕円形	U字状		土師器碗
P	2235	9H15	IV	単層		0.42	0.34	0.3	楕円形	U字状		SB18柱穴
P	2237	7G25	IV	柱痕状		0.28	0.25	0.24	円形	U字状		
P	2238	9H18	IV	柱根		(0.46)		0.54	円形	半円状		SB18柱穴 柱根残存 土師器碗
P	2240	9H24	IV	柱痕・レンズ状		0.50	0.46	0.53	円形	U字状		SB18柱穴
P	2241	10H11	IV	レンズ状		0.54	0.28	0.55	楕円形	U字状		SB18柱穴
P	2243	4G10	V	単層		0.28		0.11	円形			
P	2245	4F9	V	レンズ状+柱痕		0.60	0.55	0.47	円形	半円状		SB17柱穴
P	2248	4F10	V	レンズ状		0.55	0.52	0.38	円形	半円状		SB17柱穴
P	2249	4F4	V	単層		0.26	0.20	0.19	楕円形			
P	2250	5F6	V	レンズ状		(0.32)		0.44	U字状		P2250>SD2247	SB17柱穴 開渠で欠損
P	2254	4F14	V	単層		0.37	0.31	0.31	円形	U字状	P2254<SD2251	
P	2256	8H14	IV	レンズ状		0.61	0.39	0.19	楕円形	半円状		土師器内黒碗・碗・長囊・小囊
P	2257	9H25	IV	柱根		0.57	0.45	0.37	楕円形	箱状		SB18柱穴 柱根残存
P	2258	9H20	IV	柱痕・レンズ状		0.61	0.46	0.45	不整楕円形	半円状		SB18柱穴
P	2259	9H19	IV	柱痕状		0.42	0.39	0.38	円形	半円状		SB18柱穴
P	2260	9H20	IV	柱痕・レンズ状		0.40	0.33	0.15	不整楕円形	半円状		SB18柱穴?

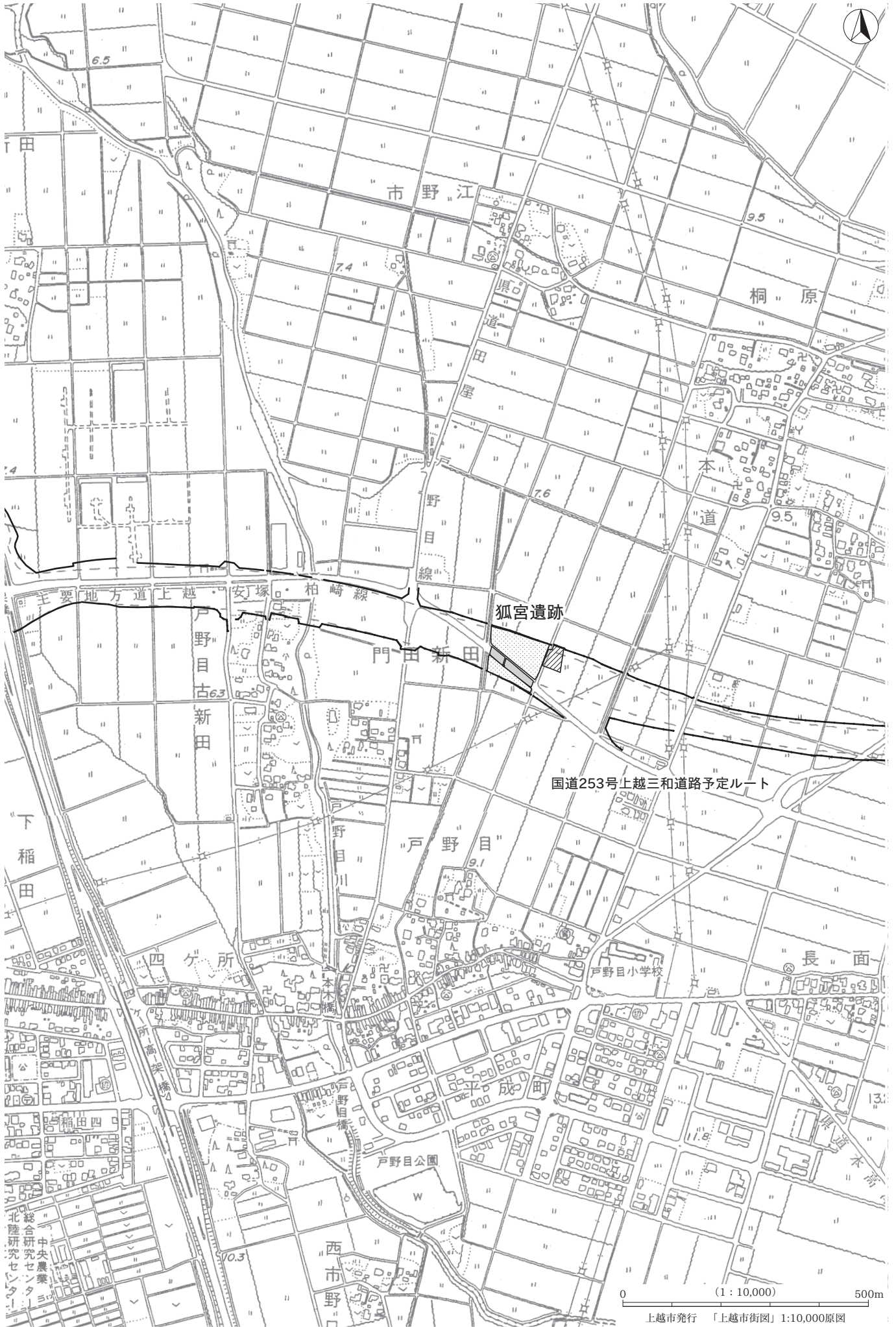
土器 観察表

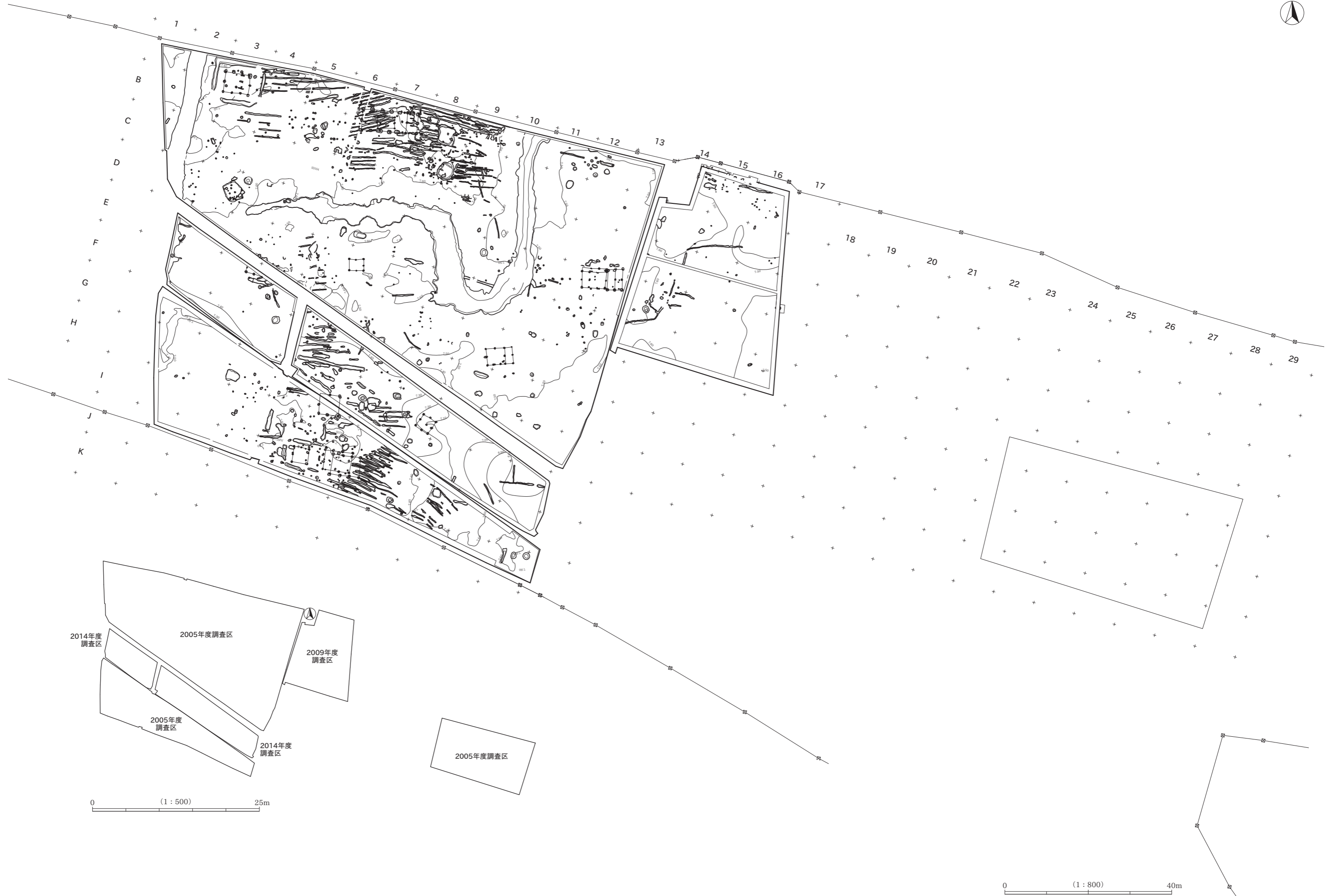
報告 番号	出土地点			時期	種別	器種	口縁残存 X/36	法量			径高 指数	色調		焼成	胎土	調整			備考
	位置	遺構	層					口径	底径	器高		外面	内面			外面	内面	底面	
1	8H11	SE2142		古代	須恵器	無台杯	2	11.2	8.0	3.2	29	灰色 (5Y5/1)	灰色 (7.5Y6/1)	良	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	底面内面漆付着 佐渡産
2	8H11	SE2142	3	古代	土師器	椀	36	13.0	5.5	3.6	28	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	普通	赤色粒子・ 石英	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切 り	底面の中心に穿孔 あり
3	9H12	SE2147	1	古代	須恵器	無台杯	36	12.8	8.4	3.4	27	灰白色 (10YR7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	佐渡産
4	8H18	SK2118	1	古代	須恵器	突帯付 四耳壺						灰黄色 (2.5Y6/2)	灰色 (5Y6/1)	良		平行叩き目	ナデ		西頸城丘陵
5	8I5	SK2145	3	古代	須恵器	小型短 頸壺	36	3.6	5.0	5.4		オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	良	細砂粒多	ロクロケズ リ	ロクロナデ	回転糸切 り	西頸城丘陵
6	8I5	SK2145	3	古代	土師器	椀	36	12.3	5.6	3.7	30	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	普通	細砂	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 り	内面中位から底面 褐色に変色
7	8I5	SK2145	3	古代	土師器	椀	36	16.6	7.0	5.6	34	浅黄色 (2.5Y7/3)	浅黄色 (2.5Y6/4)	普通	白色粒子・ チャート・ 石英	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 り	体部外面「☆」墨 書
8	10I1	SK2148	1	古代	土師器	椀	9	13.3	6.5	4.1	31	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	浅黄色 (2.5Y7/4)	普通	白色粒子・ チャート・ 石英	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 り	
9	7G23	P2119	2	古代	須恵器	甕						灰色 (10Y5/)	灰色 (N6/)	良	白色粒子・ チャート	平行叩き 目・カキ目	同心円当て 具		割れ口に漆付着？
10	7G23	P2119	2	古代								浅黄色 (5Y7/3)			砂礫多い				炬壁片か？
11	7G23	P2119	2	古代								浅黄色 (5Y7/3)			砂礫多い				炬壁片か？
12	7H15	P2146	1	古代	須恵器	無台杯	3	12.0	8.0	3.2	27	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	佐渡産
13	8H13	SX2150	1	古代	須恵器	杯蓋	6	15.8	4.1	3.0		黄灰色 (2.5Y6/1)	灰色 (5Y5/1)	良	石英	ロクロケズ リ・ロクロ ナデ	ロクロナデ		東頸城丘陵
14	8H13	SX2150	1	古代	須恵器	無台杯	10	12.2	7.6	3.0	25	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	良	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	佐渡産
15		SD2109	1	古代	須恵器	無台杯	12	12.8	7.0	2.8	22	灰色 (5Y6/1)	灰白色 (7.5Y6/1)	普通	白色粒子	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	佐渡産
16	7G25	SD2109	3	古代	土師器	内黒椀	12	16.0				にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色 (N2/)	普通	白色粒子・ 黒色粒子		ミガキ		
17	7G22	SD2109	1	古代	土師器	椀	19	11.8	4.6	4.2	36	浅黄褐色 (10YR8/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	普通	1cm 白色 砂礫含む	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 りか	
18	9H12	SD2132	1	古代	土師器	椀	8	13.0	6.0	4.4	34	浅黄色 (2.5Y7/3)	浅黄色 (2.5Y7/3)	普通		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切 り	底面外面に「林」 刻書
19	7G16	SD2135	1	古代	須恵器	無台杯	26	12.2	6.0	3.1	25	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	佐渡産
20	7G16	SD2135	1	古代	須恵器	甕	4	26.0				灰黄色 (2.5Y6/2)	灰白色 (2.5Y7/1)	良	4mm 粒の白 色粒子含む				西頸城丘陵
21	8H6		III	古代	須恵器	杯蓋	6	17.0				灰色 (N5/)	灰色 (7.5Y5/1)	良	白色粒子多 い	ロクロケズ リ・ロクロ ナデ	ロクロナデ		西頸城丘陵・転用 硯か
22	9I3		III	古代	須恵器	有台杯	7	13.0	7.0	3.5	27	灰色 (7.5Y6/1)	灰白色 (7.5 Y 7/1)	良		ロクロナデ	ロクロナデ		東頸城丘陵
23	9H24		III	古代	須恵器	無台杯	2	12.8	8.4	3.1	24	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	東頸城丘陵
24	6G12		カク ラン	古代	須恵器	無台杯	14	13.0	6.5	3.0	23	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	不良	白色粒子多 い	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ 切り	東頸城丘陵
25	7G21		III	古代	須恵器	広口瓶	7	17.0				灰色 (N6/)	灰色 (7.5Y5/1)	良	砂	ロクロナデ	ロクロナデ		西頸城丘陵
26	9I8		III	古代	須恵器	甕	4	19.8				灰白色 (2.5Y7/1)	灰黄色 (2.5Y7/2)	不良	5mm 粒の 砂礫含む	平行叩き目	同心円当て 具		東頸城丘陵

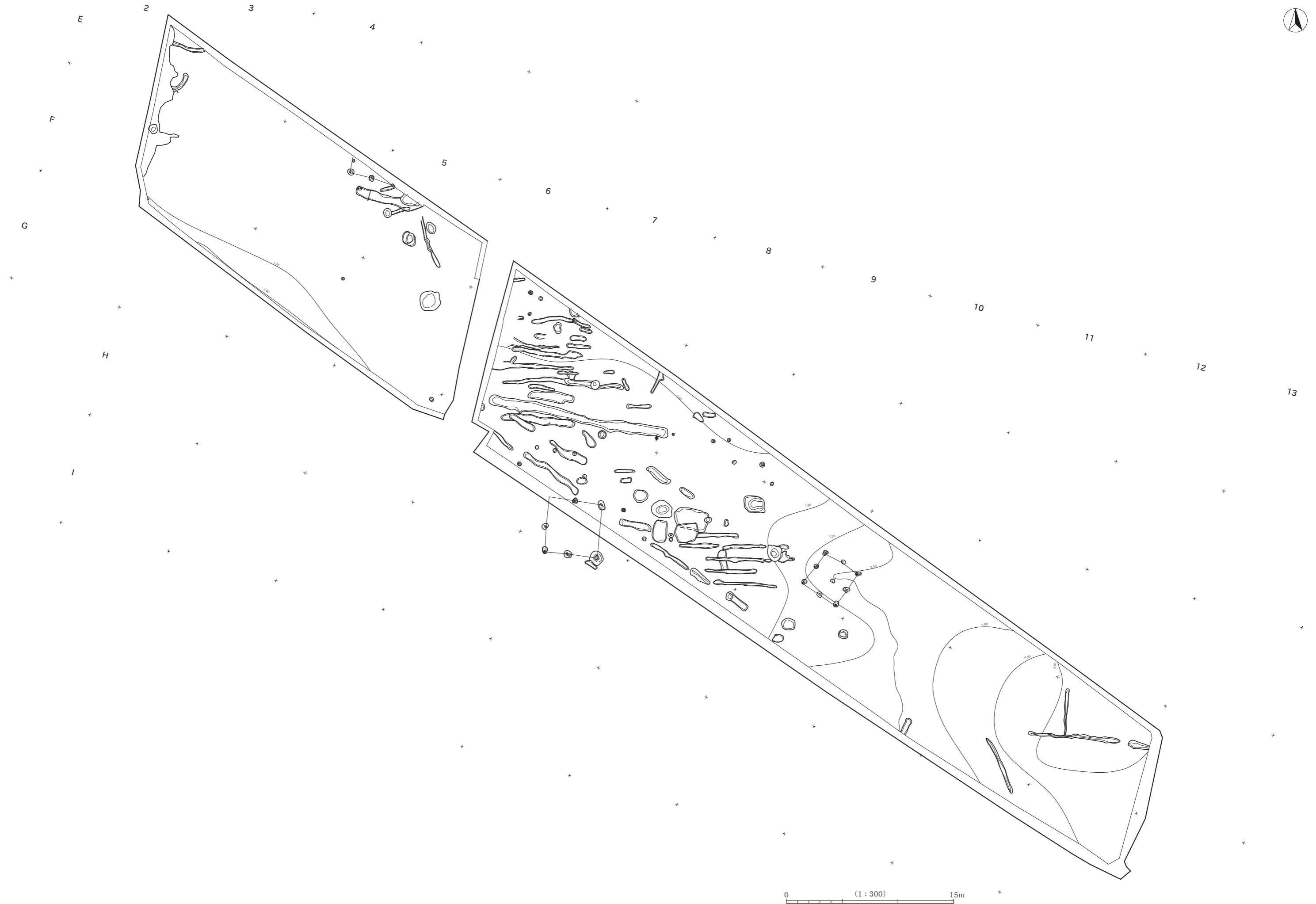
木製品 観察表

実測 No	報告 番号	図版 番号	出土地点			器種	樹種	木取り	法量			備考
			位置	遺構	層				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
32	27		8H11・12	SE2142	3	曲物側板	アスナロ属か？	柾目		(2.70)	0.20	孔1
31	28		8H11・12	SE2142	3	曲物底板	アスナロ属か？	柾目	16.80	(16.50)	0.50	内面：黒色付着物
30	29		9H12・17	SE2147	3	曲物蓋板	アスナロ属か？	柾目	16.90	(7.00)	1.00	内面：刃物痕
33	30			SB18-P2238		柱根		削出 (芯去)	(11.90)	(7.50)	(4.50)	
34	31			SB18-P2257		柱根		分割 (芯去)	(25.90)	(14.50)	(4.50)	

圖 版

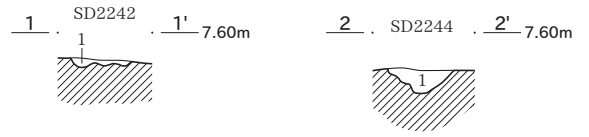






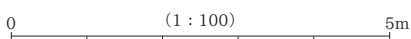
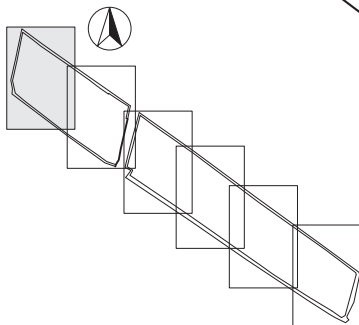
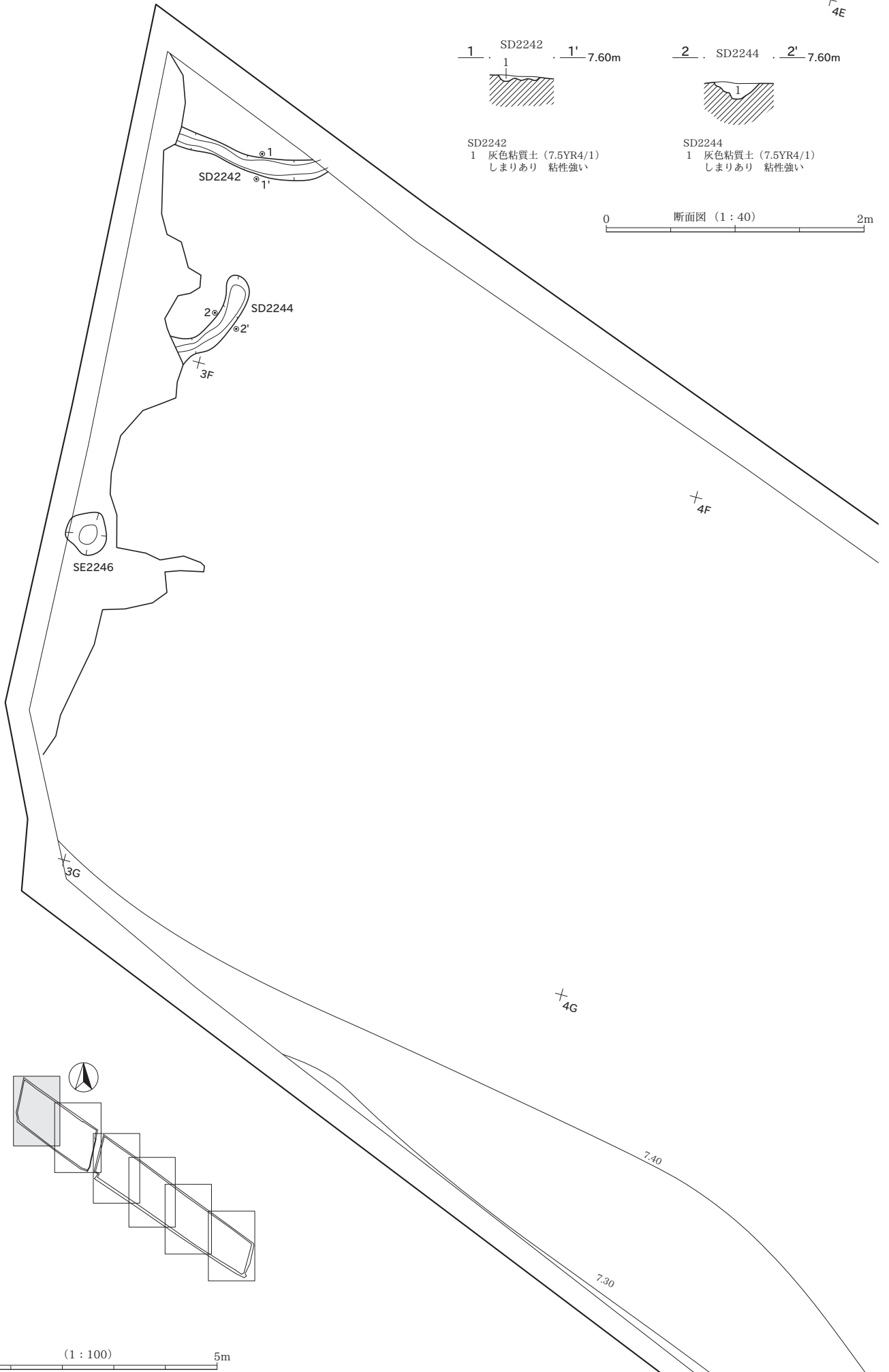
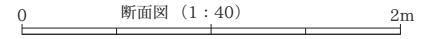


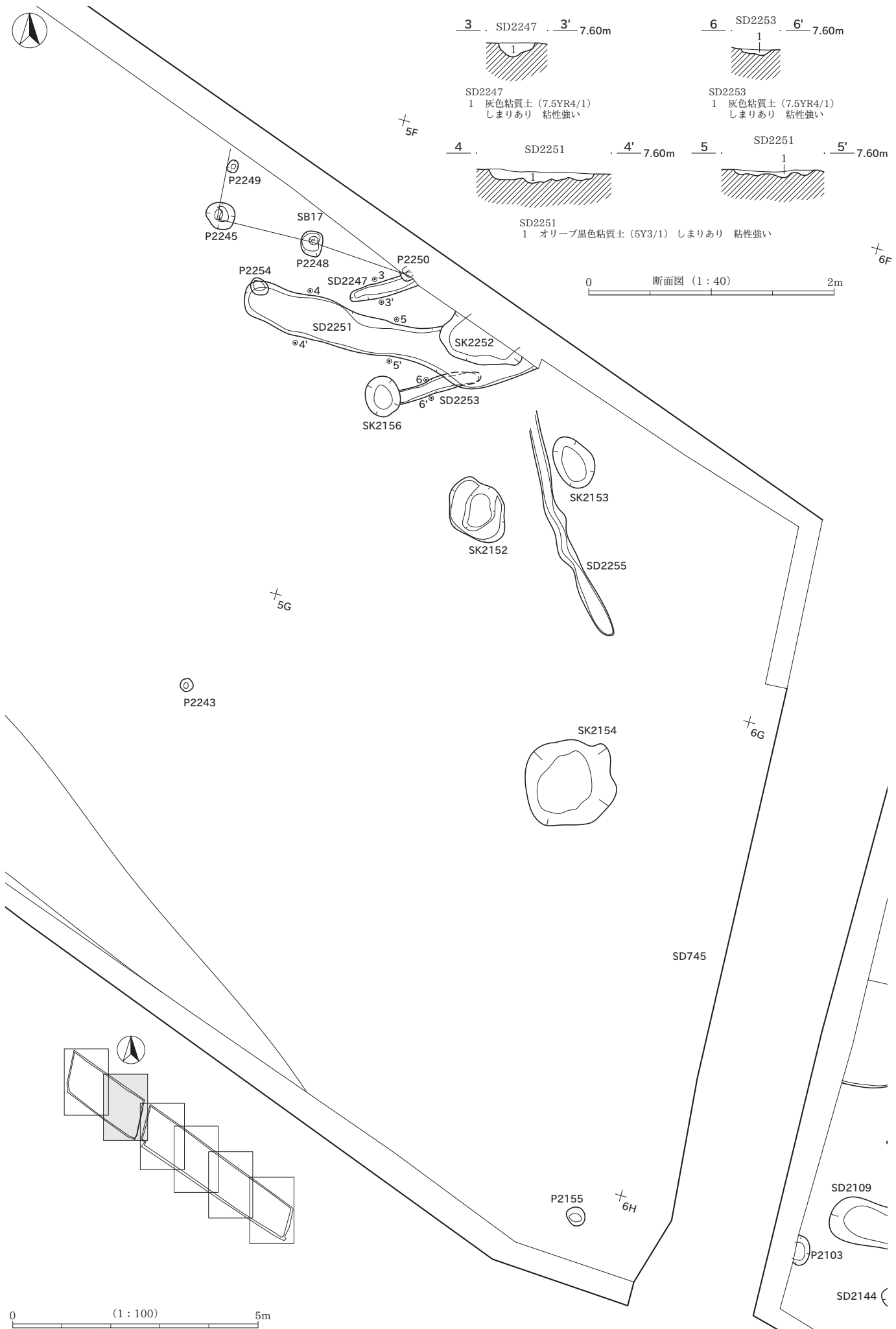
+4E

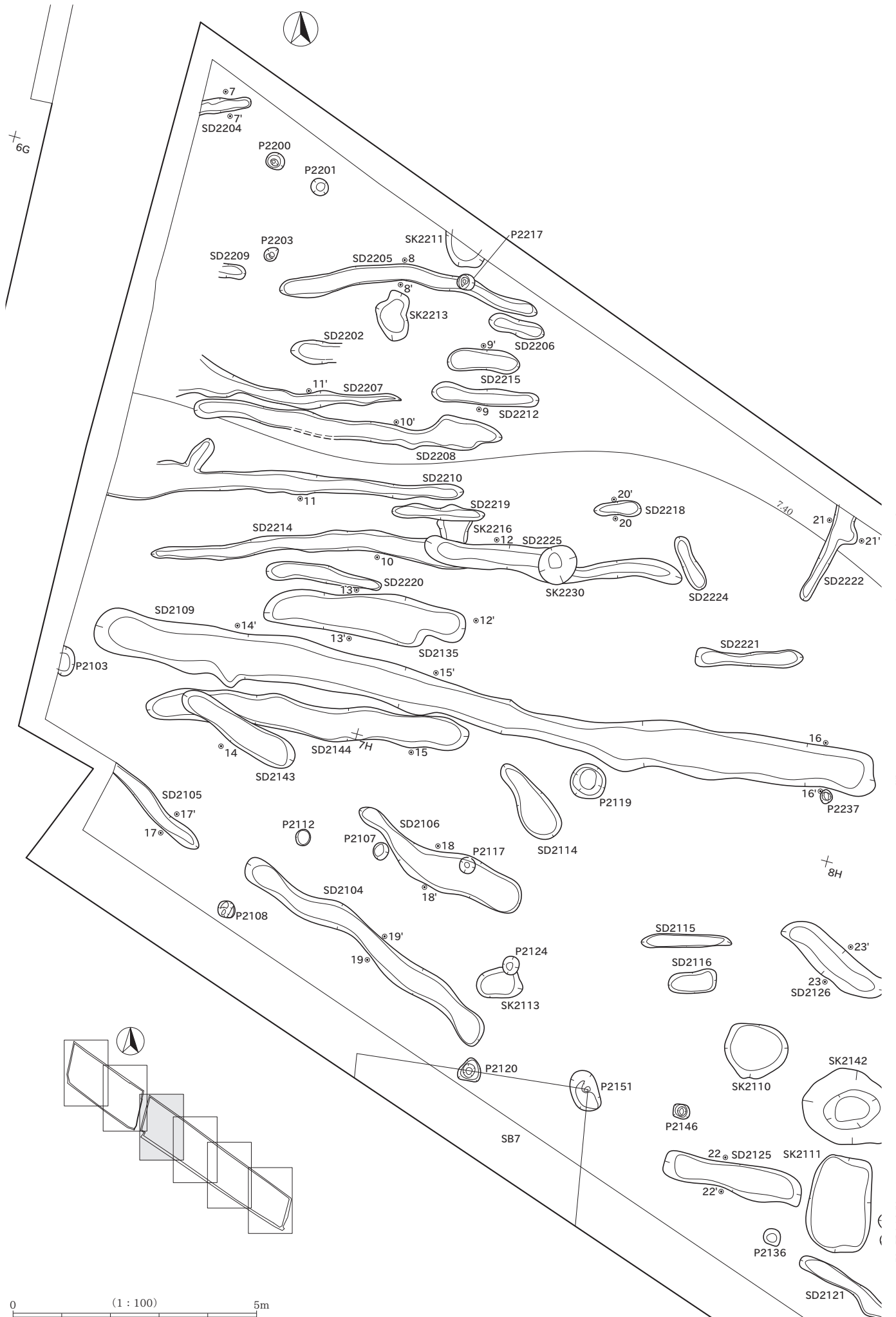


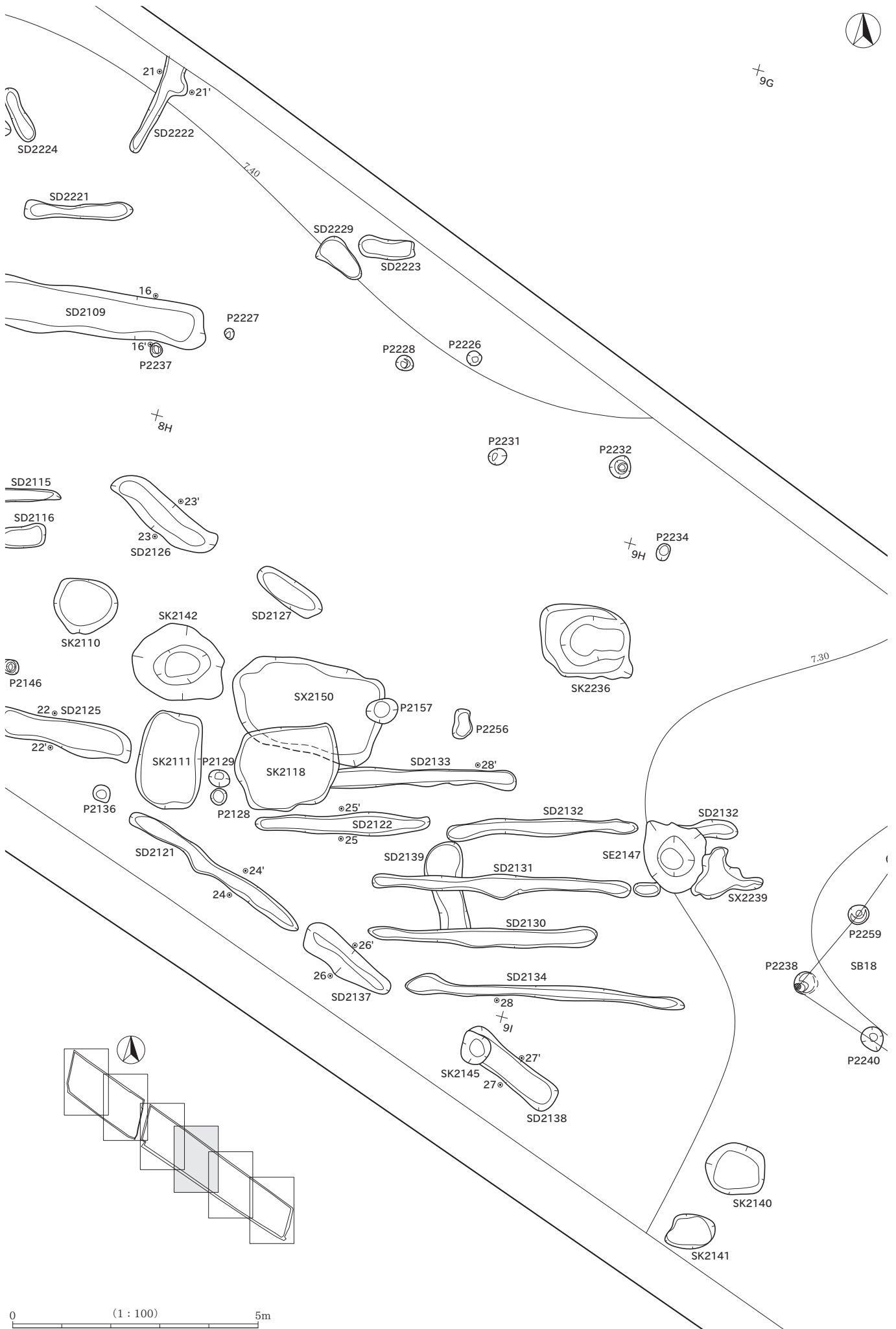
SD2242
 1 灰色粘質土 (7.5YR4/1)
 しまりあり 粘性強い

SD2244
 1 灰色粘質土 (7.5YR4/1)
 しまりあり 粘性強い

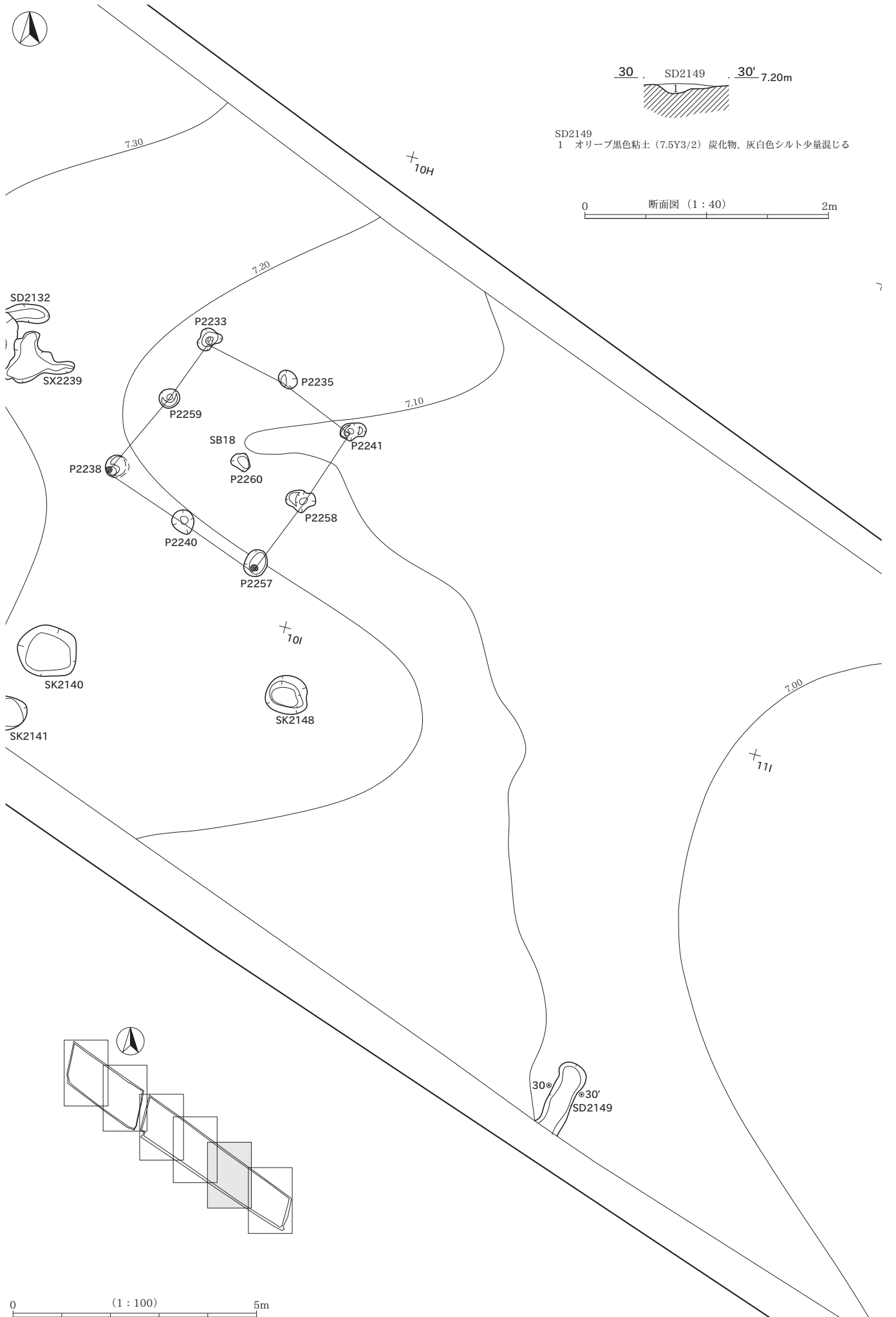


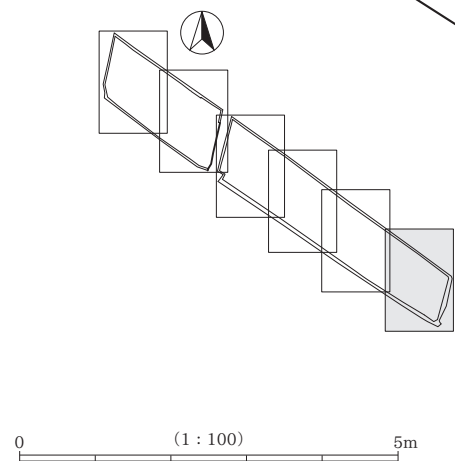
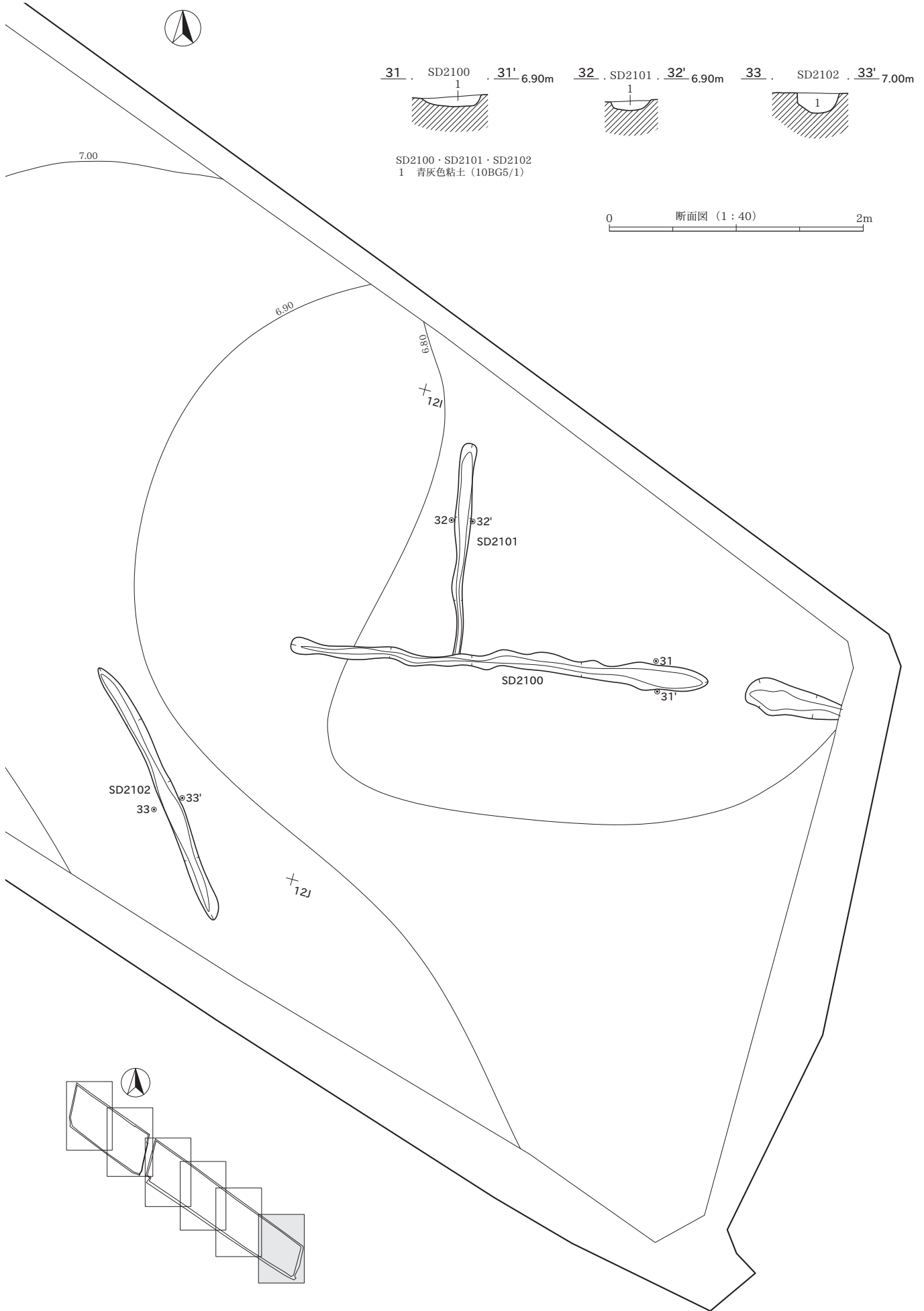


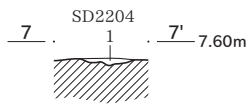




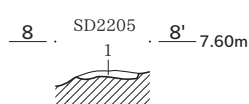
0 (1 : 100) 5m



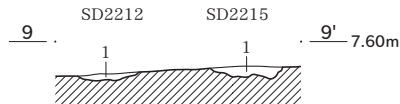




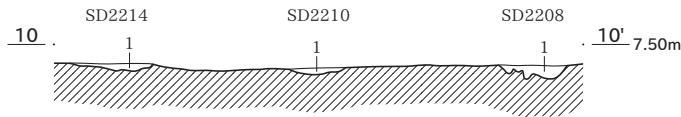
SD2204
1 灰色粘質土 (7.5YR4/1)



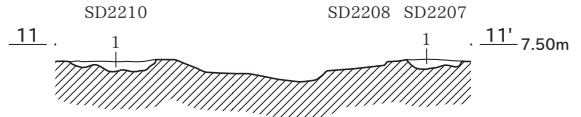
SD2205
1 灰色粘質土 (7.5YR4/1) しまりあり 粘性強い



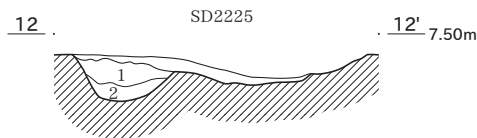
SD2212・SD2215
1 灰色粘質土 (7.5YR4/1) しまりあり 粘性強い



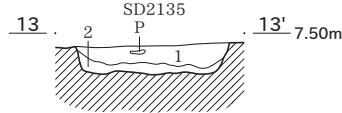
SD2214・SD2210・SD2208
1 灰色粘質土 (7.5YR5/1) しまりあり 粘性強い



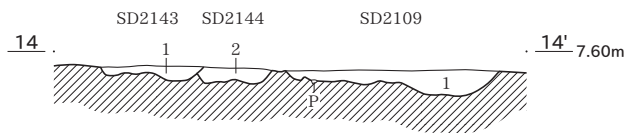
SD2210・SD2207
1 灰色粘質土 (7.5YR5/1) しまりあり 粘性強い



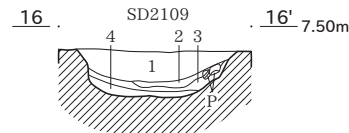
SD2225
1 灰色粘質土 (5Y4/1) しまりあり 粘性強い 炭化物粒子含む
2 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) しまりあり 粘性強い



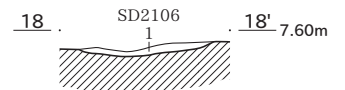
SD2135
1 褐灰色粘質土 (10YR4/1) しまりあり 粘性強い 炭化物やや多く含む
2 褐灰色粘質土 (10YR4/2) しまりあり 粘性強い 炭化物やや多く含む 灰白色シルト混じる



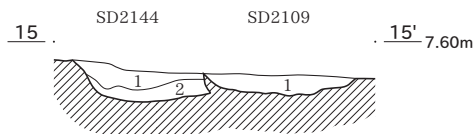
SD2109 (14・15)
1 灰色粘質土 (5Y4/1) 灰オリーブシルト少量含む



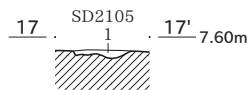
SD2109 (16)
1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 炭化物含む
2 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 炭化物含む
3 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)
4 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 炭化物多い



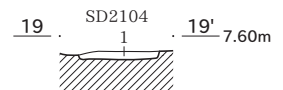
SD2106
1 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2) 黒褐色土との混合土



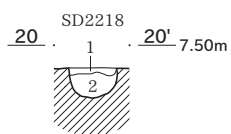
SD2144
1 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/2) 灰オリーブシルト少量含む
2 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1) 炭化物少量含む



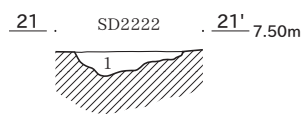
SD2105
1 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2) 黒褐色土との混合土



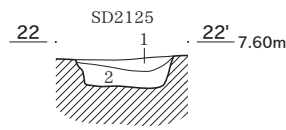
SD2104
1 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2) 黒褐色土との混合土



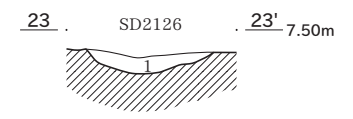
SD2218
1 灰色粘質土 (5Y4/1) 炭化物含む
2 灰色粘質土 (7.5Y5/1)



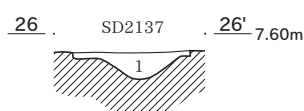
SD2222
1 灰色粘質土 (5Y4/1) 炭化物含む



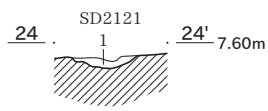
SD2125
1 暗灰色粘質土 (N3/) 灰オリーブシルト少量混じる
2 灰色粘質土 (10Y4/1)



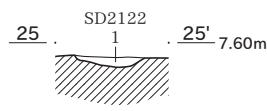
SD2126
1 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/2) 灰白色シルト、炭化物少量混じる



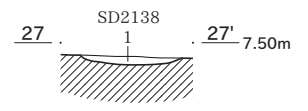
SD2137
1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 炭化物、灰白色シルト少量混じる



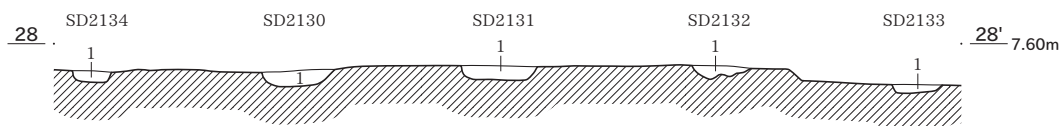
SD2121
1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 灰白色シルト混じる



SD2122
1 灰オリーブ粘質土 (5Y4/2)



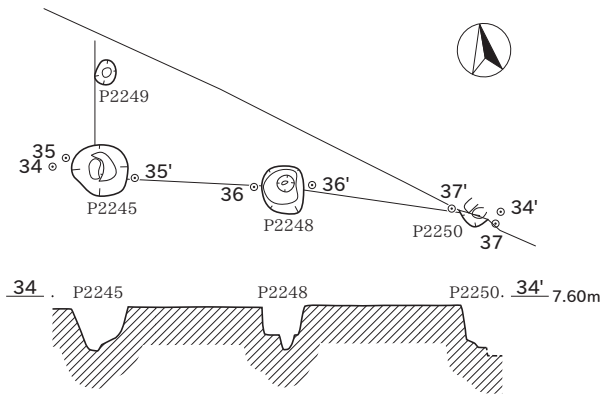
SD2138
1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 炭化物、灰白色シルト少量混じる



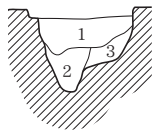
SD2134・SD2130・SD2131
1 灰色粘土 (5Y4/1)

SD2132・SD2133
1 暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)

SB17

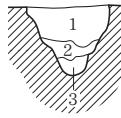


35 . P2245 . 35' 7.60m



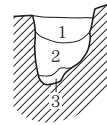
- P2245
 1 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
 2 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)
 3 灰オリーブ粘質土 (7.5Y5/2)

36 . P2248 . 36' 7.60m



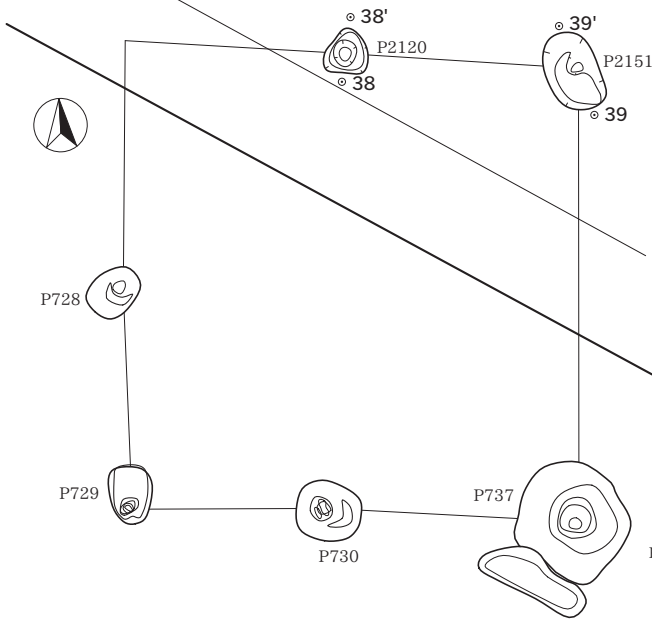
- P2248
 1 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
 2 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)
 3 灰色粘質土 (7.5Y4/1)

37 . P2250 . 37' 7.60m

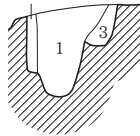


- P2250
 1 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2)
 3 灰オリーブ粘質土 (7.5Y5/2)

SB7

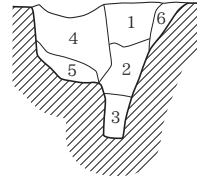


38 . P2120 . 38' 7.60m



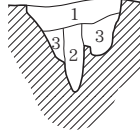
- P2120
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)
 2 褐灰色粘質土 (10YR6/1)
 3 黒褐色粘質土 (10YR3/1)

39 . P2151 . 39' 7.60m



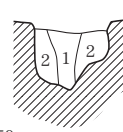
- P2151
 1 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 炭化物少量含む
 2 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
 3 黒色粘質土 (10YR2/1)
 4 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)
 5 黒色粘質土 (10YR2/1)
 6 黒色粘質土 (10YR2/1) 灰色シルトを多く含む

43 . P2233 . 43' 7.20m



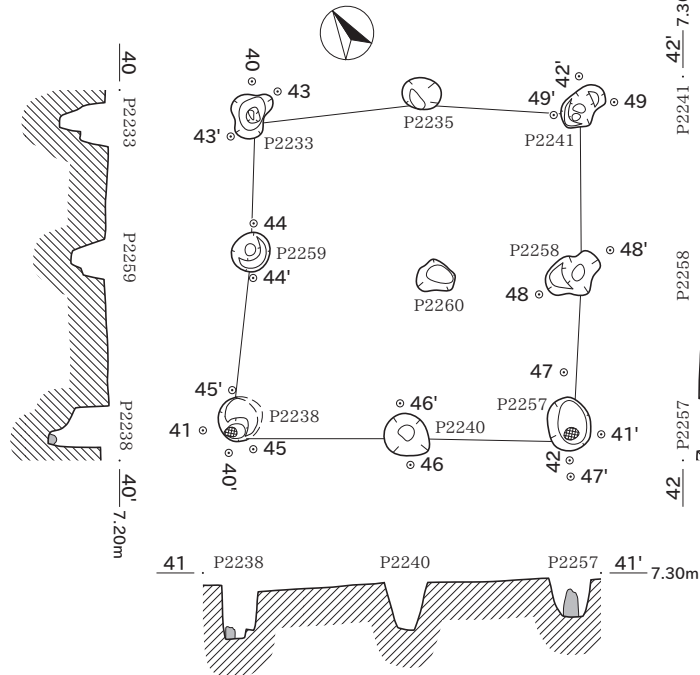
- P2233
 1 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/2)
 2 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)
 3 灰オリーブ粘質土 (7.5Y4/2) 黒色粘土ブロック含む

44 . P2259 . 44' 7.30m

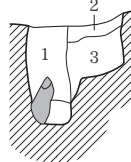


- P2259
 1 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
 2 灰オリーブ粘質土 (7.5Y4/2) 炭化物含む

SB18

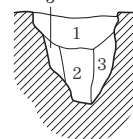


45 . P2238 . 45' 7.30m



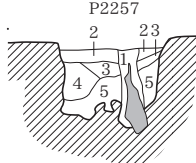
- P2238
 1 灰色粘質土 (5Y4/1)
 2 暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)
 3 灰色粘質土 (7.5Y4/1)

46 . P2240 . 46' 7.40m



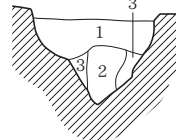
- P2240
 1 灰色粘質土 (5Y4/1)
 2 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)
 3 灰色粘質土 (7.5Y4/1)

47 . P2257 . 47' 7.30m



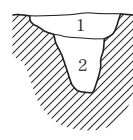
- P2257
 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 柱根残存
 2 灰色粘質土 (5Y4/1)
 3 灰色粘質土 (5Y5/1)
 4 灰オリーブ粘質土 (5Y5/2)
 5 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)

48 . P2258 . 48' 7.30m

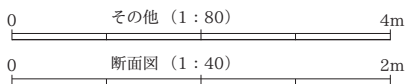


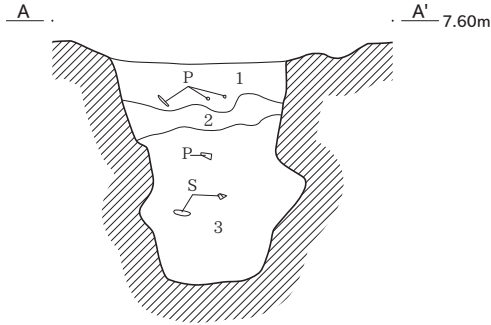
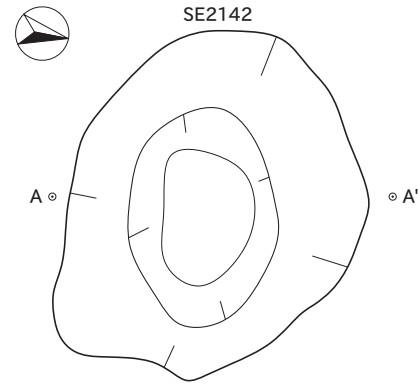
- P2258
 1 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
 2 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)
 3 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/2)

49 . P2241 . 49' 7.30m

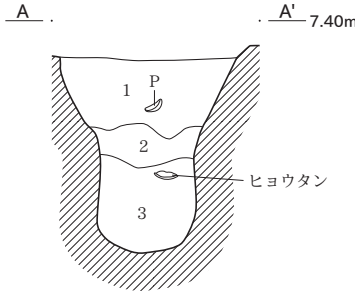
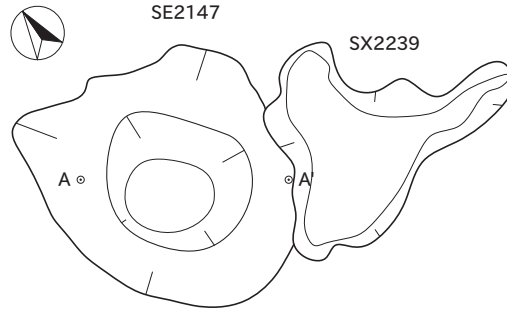


- P2241
 1 灰色粘質土 (5Y4/1)
 2 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)

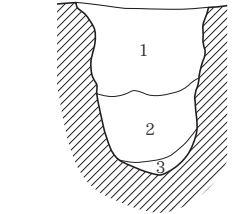
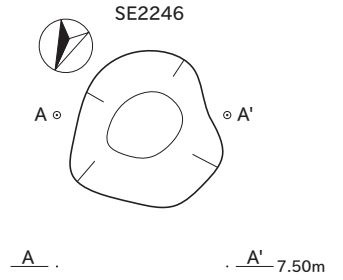




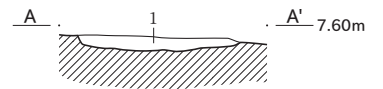
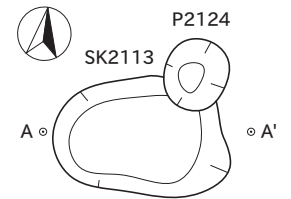
SE2142
1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 炭化物・焼土少量含む
2 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 黄灰色シルト少量含む
3 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 炭化物・焼土少量含む



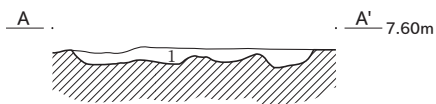
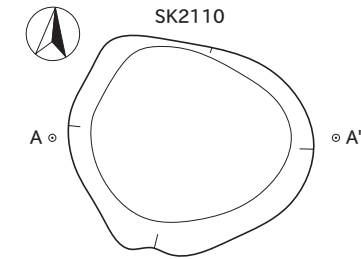
SE2147
1 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 灰白色シルト、炭化物多く含む
2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 炭化物少量含む
3 黒色粘質土 (10YR2/1) 灰白色シルト少量含む



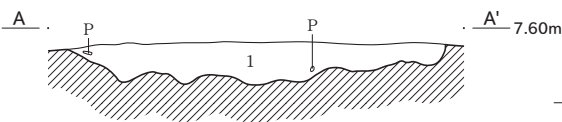
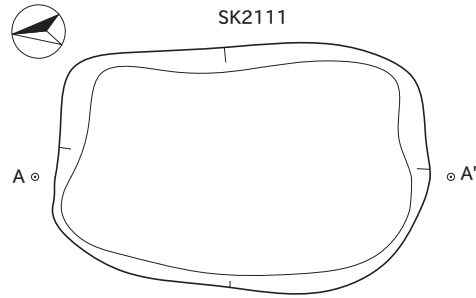
SE2246
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 灰白色粘土ブロック含む
2 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 炭化物粒子含む
3 オリーブ黒色粘質土 (5Y2/2) 腐植物混じる



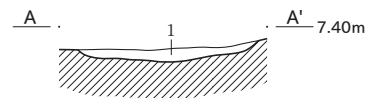
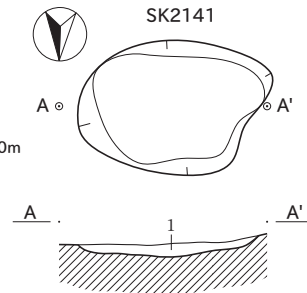
SK2113
1 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 黒褐色土との混泥土 炭化物少量含む



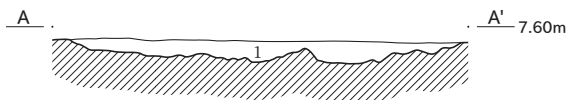
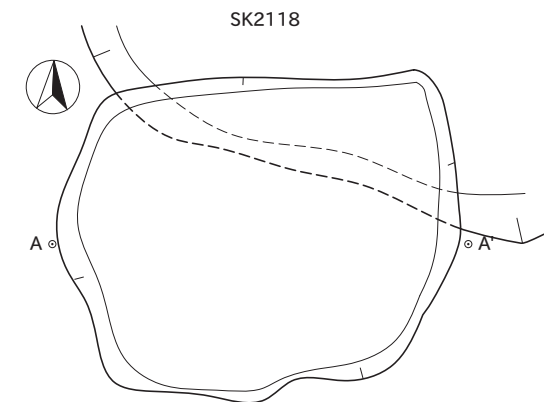
SK2110
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 炭化物少量含む



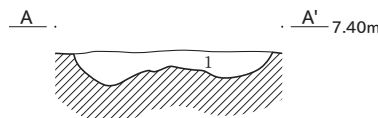
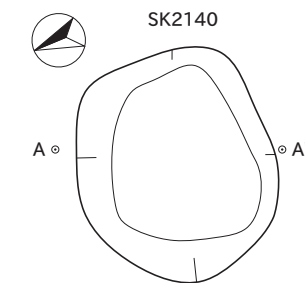
SK2111
1 褐灰色粘質土 (7.5YR6/1)



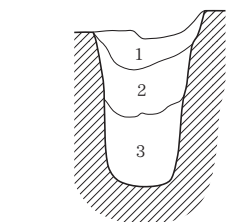
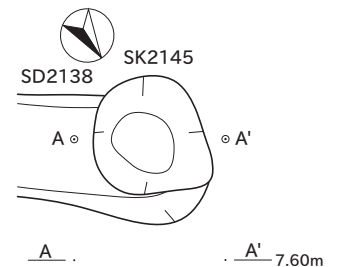
SK2141
1 褐灰色粘質土 (10YR6/1)



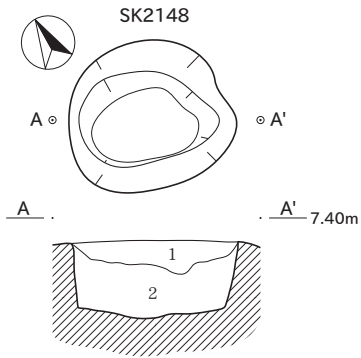
SK2118
1 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1) 炭化物少量含む



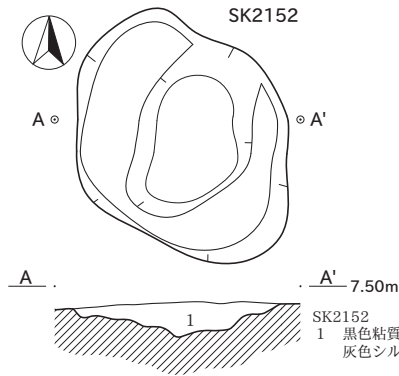
SK2140
1 褐灰色粘質土 (10YR6/1)



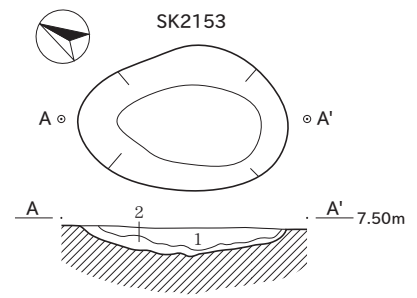
SK2145
1 褐灰色 (10YR5/1)
2 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
3 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)



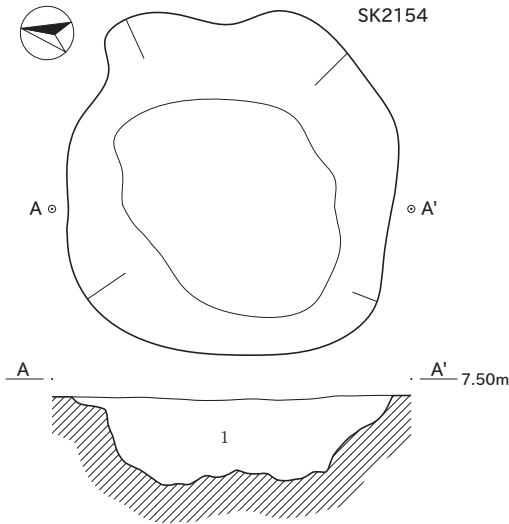
SK2148
1 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 炭化物少量含む
2 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 灰色シルトブロック混じる



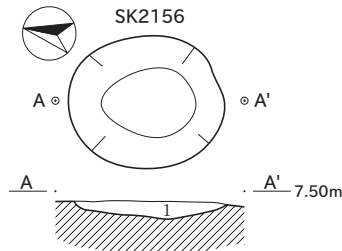
SK2152
1 黒色粘質土 (5Y2/1) 灰色シルト質土ブロック混じる



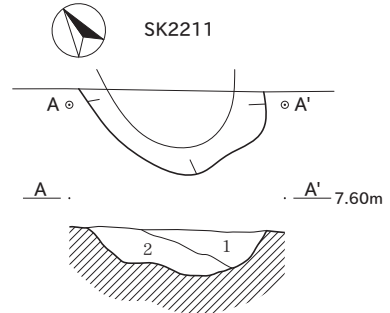
SK2153
1 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2) 炭化物少量含む
2 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 炭化物少量含む



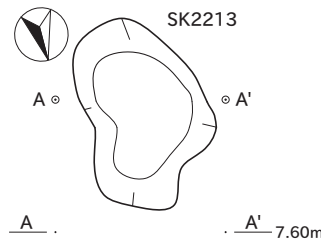
SK2154
1 黒色粘質土 (5Y2/1) 灰色シルト質土ブロック混じる



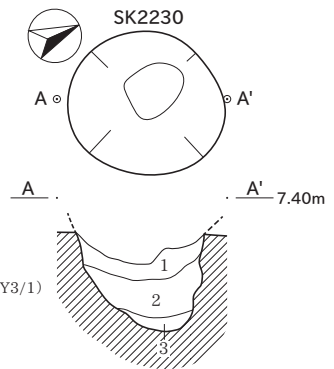
SK2156
1 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2) 炭化物少量含む



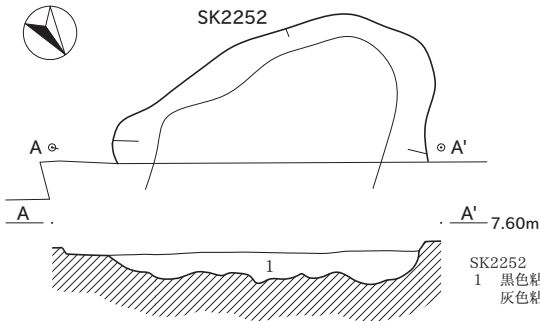
SK2211
1 黒色粘質土 (10YR2/1) 灰色シルト質土ブロック混じる
2 灰色粘質土 (5Y4/1) を主体に黒色粘質土混じる



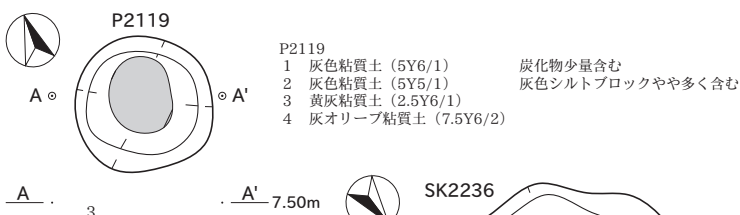
SK2213
1 灰色粘質土 (2.5Y5/1)



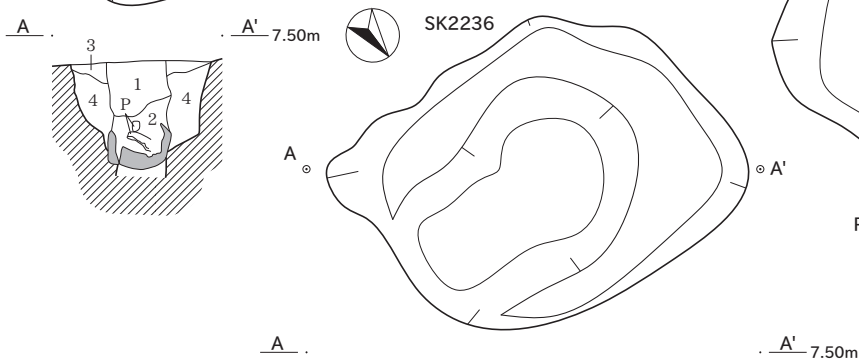
SK2230
1 灰色粘質土 (5Y4/1) 灰白色粘土混じる
2 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 炭化物含む
3 黒色粘質土 (5Y2/1) 灰色粘土混じる



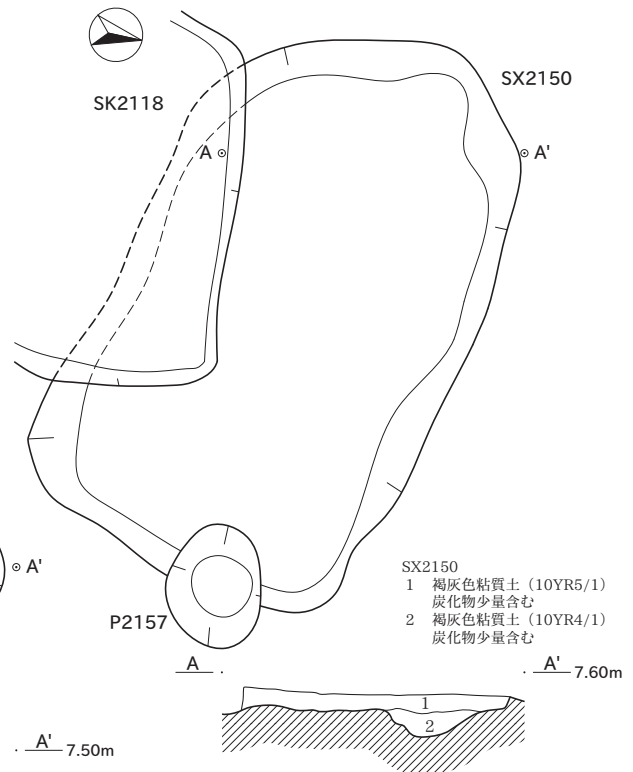
SK2252
1 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 灰色粘土ブロック含む



P2119
1 灰色粘質土 (5Y6/1) 炭化物少量含む
2 灰色粘質土 (5Y5/1) 灰色シルトブロックやや多く含む
3 黄灰粘質土 (2.5Y6/1)
4 灰オリーブ粘質土 (7.5Y6/2)

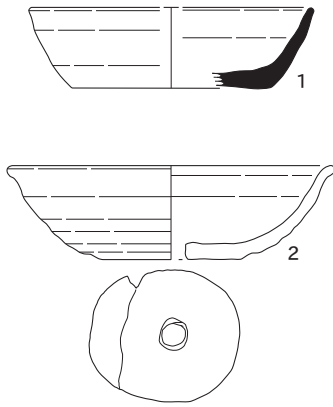


SK2236
1 黒色粘質土 (5Y2/1) 灰色粘土ブロック含む
2 灰色粘質土 (7.5Y4/1)
3 灰色粘質土 (5Y4/1) オリーブ黒色粘土ブロック含む

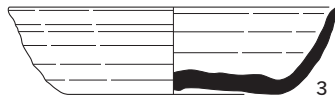


SX2150
1 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 炭化物少量含む
2 褐灰色粘質土 (10YR4/1) 炭化物少量含む

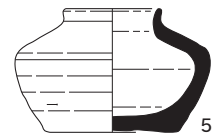
SE2142 (1・2)



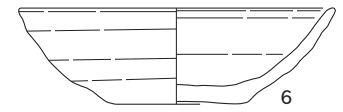
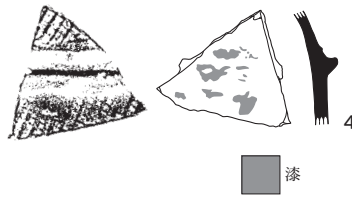
SE2147 (3)



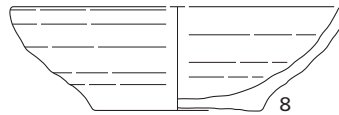
SK2145 (5~7)



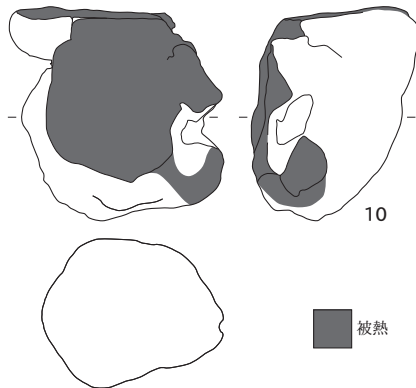
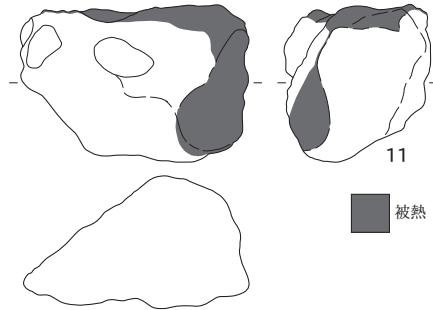
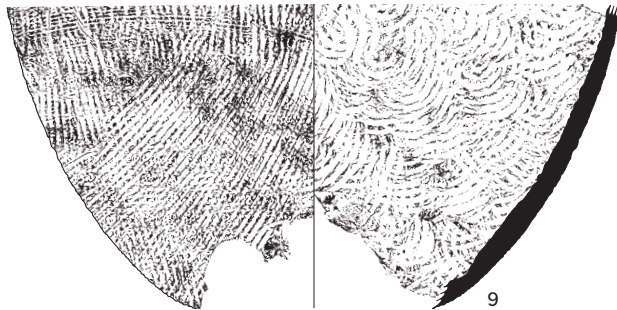
SK2118 (4)



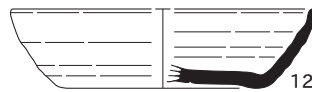
SK2148 (8)



P2119 (9~11)



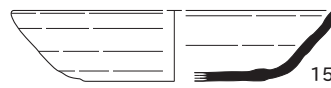
P2146 (12)



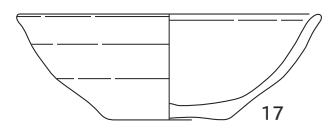
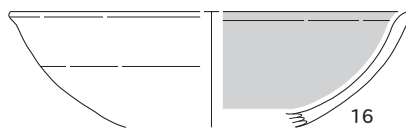
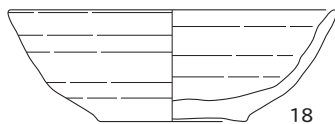
SX2150 (13・14)



SD2109 (15~17)

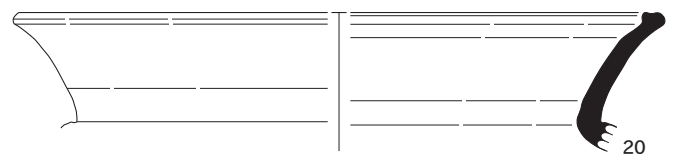
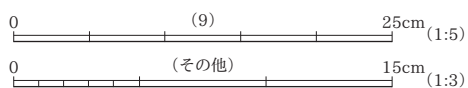


SD2132 (18)

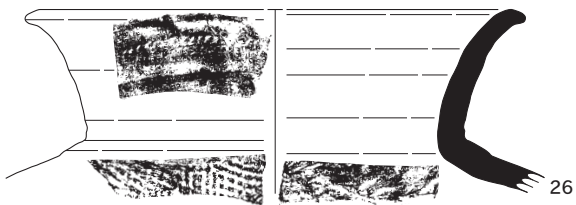
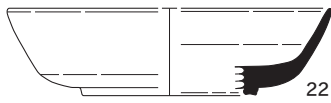
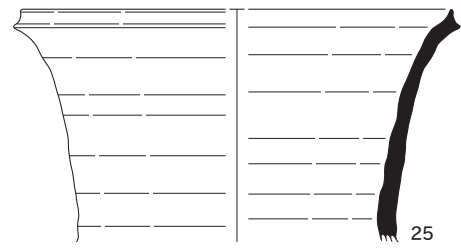
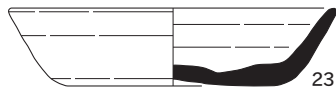
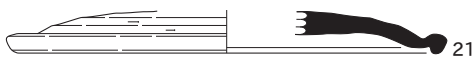


黒色処理

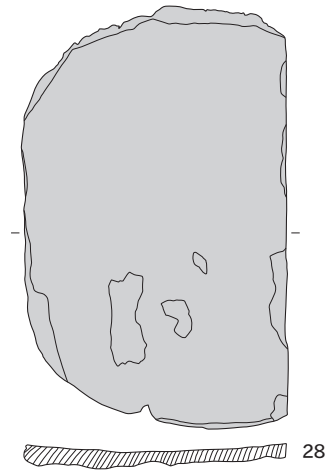
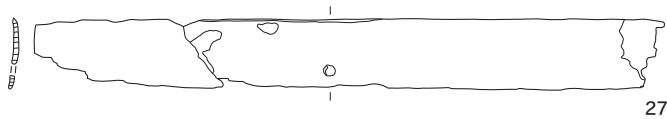
SD2135 (19・20)



包含層 (21~26)



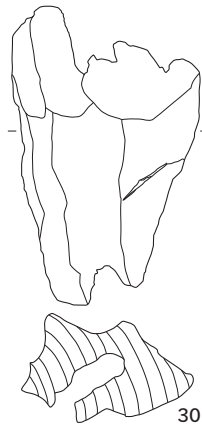
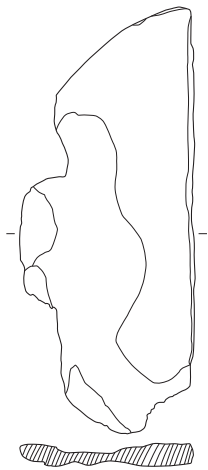
木製品 SE2142 (27・28)



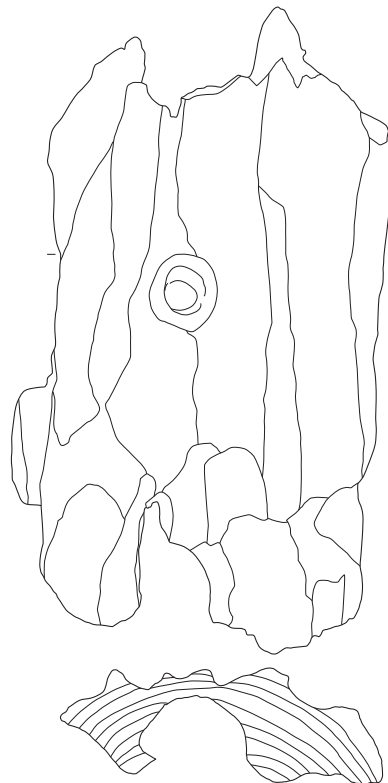
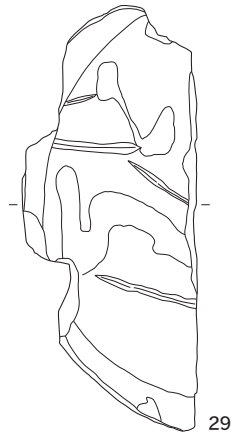
SE2147 (29)

SB18-P2238 (30)

■ 黒色処理



SB18-P2257 (31)





調査区全景（上空南西から）



調査区全景（上空真上から）



6～10G・H グリッド 遺構検出状況(上空真上から)



SB17 完掘(北東から)



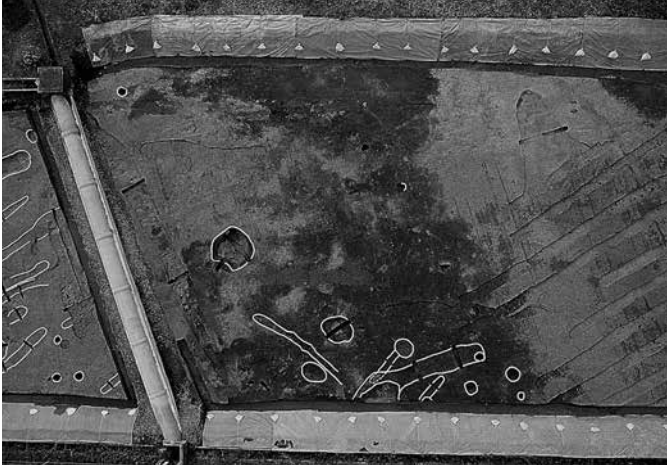
基本層序 4I 25 グリッド(南から)



SK2145 須恵器小型短頸壺(5) 出土状況(北から)



SK2145 出土土器



SB17 周辺 遺構完掘 (上空真上から)



SB17 P2245 断面 (南から)



SB17 P2248 完掘 (南から)



SB17 P2250 断面 (北東から)



SB17 SD2251 断面 (4-4') (西から)



SB7 北辺柱列周辺 完掘 (西から)



SB7 P2151 断面 (東から)



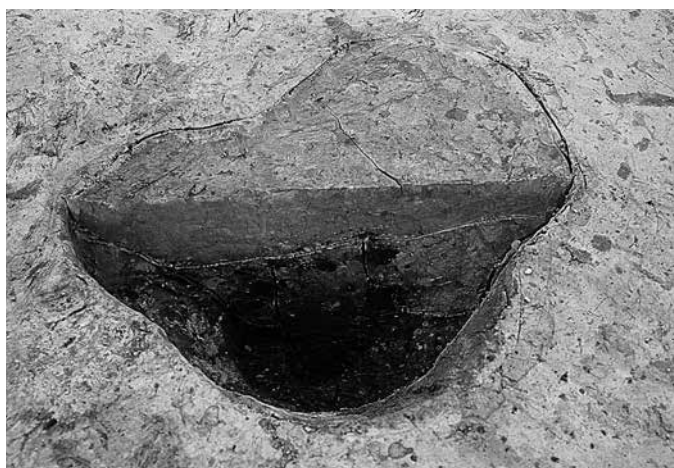
SB7 P2151 完掘 (西から)



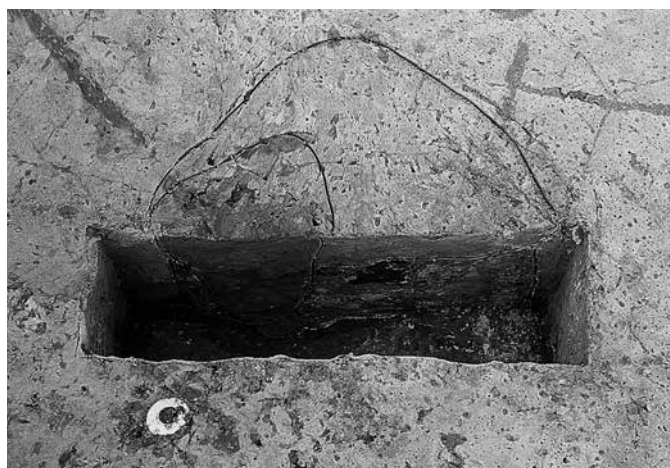
SB7 P2120 断面(東から)



SB18 完掘(北東から)



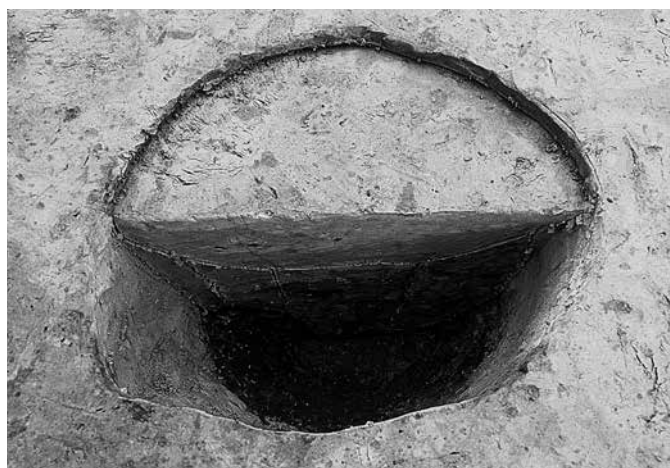
SB18 P2233 断面(北から)



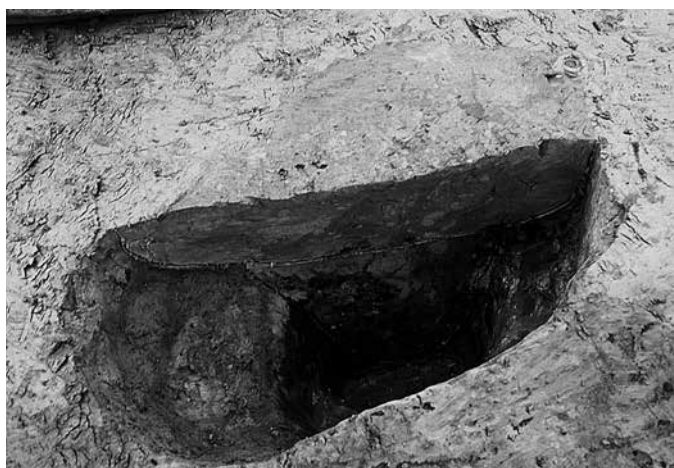
SB18 P2238 断面(東から)



SB18 P2238 完掘(東から)



SB18 P2240 断面(東から)



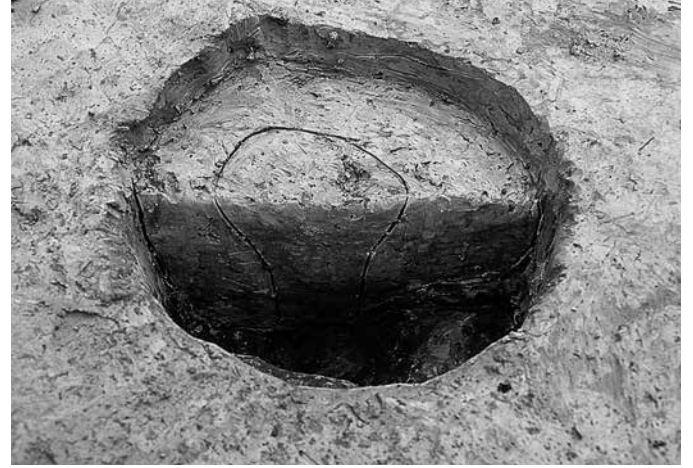
SB18 P2241 断面(北から)



SB18 P2257 断面(東から)



SB18 P2258 断面(南から)



SB18 P2259 断面(北西から)



SE2142 断面(東から)



SE2142 礫・瓢箪出土状況(東から)



SE2147 断面(南西から)



SE2147 断面(北東から)



SE2147 遺物出土状況(西から)



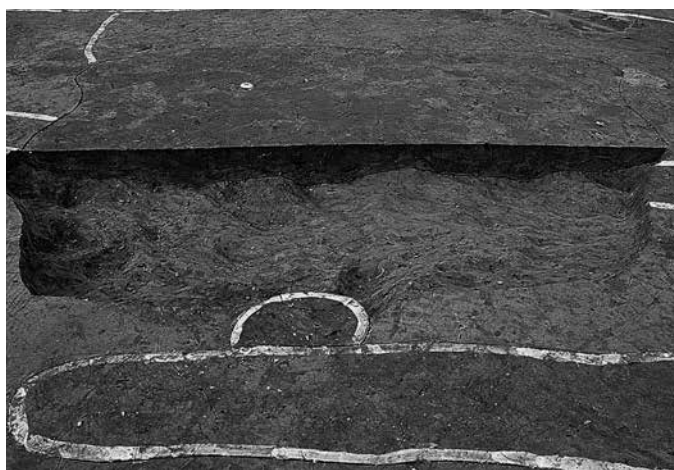
SE2246 断面(北から)



SK2110 断面(南から)



SK2111 断面(西から)



SK2118 断面(南から)



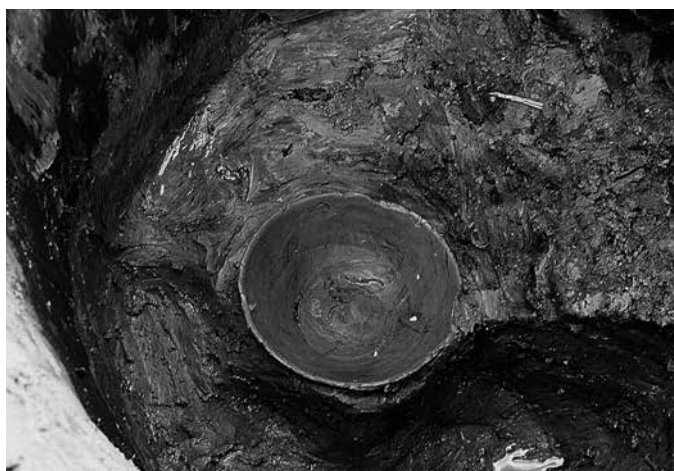
SK2140 断面(西から)



SK2141 断面(北から)



SK2145 断面(北東から)



SK2145 土師器椀(7) 出土状況(北東から)



SK2145 土師器椀(6) 出土状況(北から)



SK2148 断面(南西から)



SK2152 断面(南から)



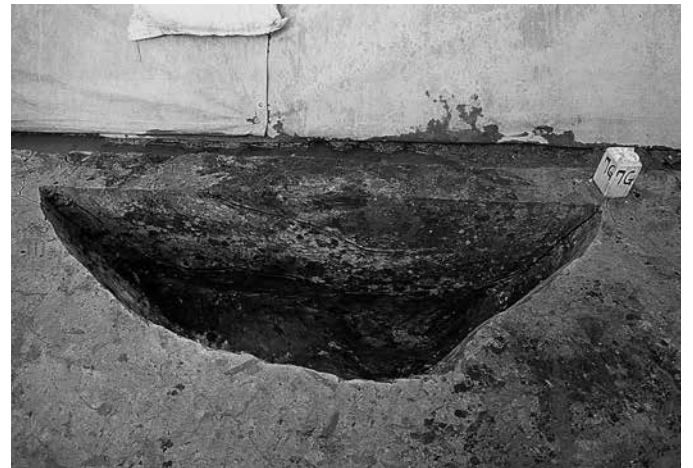
SK2153 断面(南西から)



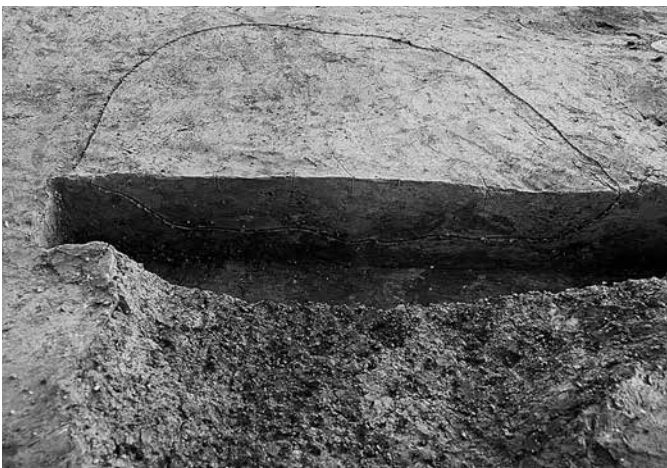
SK2154 断面(西から)



SK2156 断面(西から)



SK2211 断面(南西から)



SK2213 断面(北から)



SK2230 断面(東から)



SK2236 断面(北東から)



P2119 断面(南西から)



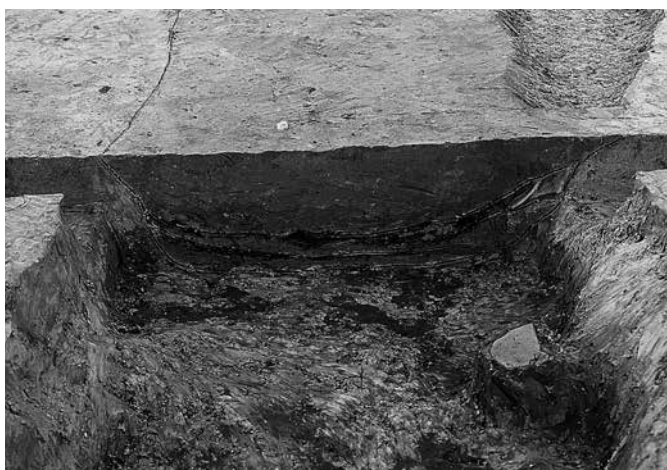
P2119 遺物出土状況(南から)



SX2150 遺物出土状況(南から)



SD2208 断面(東から)



SD2109 断面(東から)



SD2135 断面(南西から)



SD2135 遺物出土状況(東から)

SE2142 (1・2)



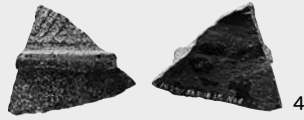
SE2147 (3)



SK2145 (5~7)



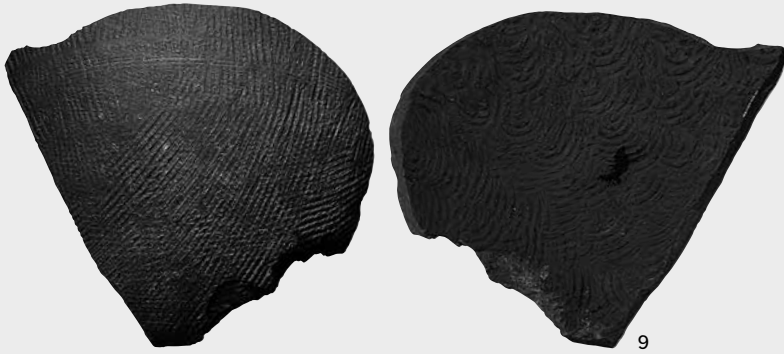
SK2118 (4)



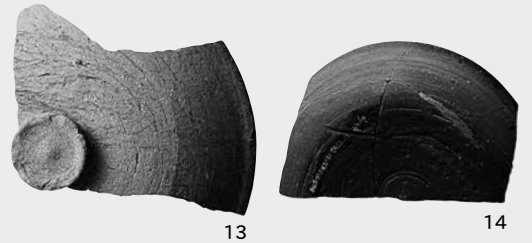
SK2148 (8)



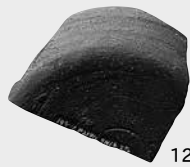
P2119 (9~11)



SX2150 (13・14)



P2146 (12)



SD2109 (15~17)



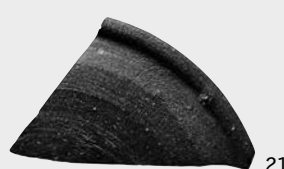
SD2132 (18)



SD2135 (19・20)



包含層 (21~26)



9 [1:5]
その他 [1:3]

SE2142 (27・28)



27

SE2147 (29)



28



29

SB18・P2238 (30)



30

SB18・P2257 (31)



31



9 須恵器 甕内面 漆付着



7 土師器無台椀 体部墨書「☆」か



18 土師器無台椀 底部刻書「林」

報告書抄録

ふりがな	きつのみやいせき さん							
書名	狐宮遺跡Ⅲ							
副書名	一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書							
巻次	Ⅻ							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第268集							
編著者名	飯坂盛泰（埋文事業団）							
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250(25)3981							
発行年月日	2016（平成28）年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きつのみや 狐宮遺跡	にいがたけんじょうまつし 新潟県上越市 もんでんしん でんあきさむかい 門田新田字江向 ほんち 20番地5ほか	152269	1475	37度 7分 44秒	138度 16分 50秒	20140916～ 20141121	1,810㎡	一般国道253号 上越三和道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
狐宮遺跡	集落	平安時代（9世紀 中葉）	掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑 18基、ピット41基、溝53条、 性格不明遺構2基			須恵器、土師器、 木製品（曲物・ 柱根）		
要約	高田平野中央部、関川右岸の標高約8mの自然堤防上に所在し、旧状は水田であった。調査の結果、平安時代の遺構・遺物を検出した。掘立柱建物は小規模で、建物周辺で井戸、畑作溝と考えられる平行する溝群を検出した。土坑で、地鎮を行ったと考えられる土器埋納遺構があった。遺跡は9世紀に自然堤防上に形成し、農業を基盤に営まれた一般集落である。							

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第268集
一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅻ

狐宮遺跡Ⅲ

2016(平成28)年3月22日印刷
2016(平成28)年3月25日発行

編集・発行 新潟県教育委員会
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
電話 025(285)5511
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
電話 025(233)0321